

学校の今に寄り添い、先生方とともに未来を描く

[ビューネクスト] 高校版

VIEWnext

2022 April

4

Photo Session at Cover

神奈川県立
横浜平沼高校

特集

新学習指導要領、始動！

不断の改善で推進する

生徒主体の 新教育課程

指導変革の軌跡

神奈川県・私立

関東学院中学校高校

発問・課題設定をキーに見る

主体的・対話的で深い学び 授業実践

英語

埼玉県・私立西武学園文理中学・高校

土屋進一

数学

兵庫県立三田祥雲館高校

藤原雄





大きな問題を解決するための一歩とは？

他人事が自分事になる時って？

未来を描く！ 創る！
イノベティブな
生徒たち

第6回

検証と改善のサイクルで世界を変える！ 校内ごみ分別プロジェクト

北川杏菜さん・高校3年生(左) / **泉怜杏**さん・高校3年生(右)

京都府・私立花園中学高校

校 内ごみ分別プロジェクトを、
泉怜杏さん、北川杏菜さんが
スタートしたのは、探究学習のテー
マを考える中で、河川から海に流れ
込んだプラスチックが海の生態系に
大きな影響を与えていることを知っ
たことがきっかけだ。何の気なしに
道端に捨てられたプラスチックごみ
が、海の様々な生き物の命を奪って
いること、地球温暖化同様、待った
なしの問題であるにもかかわらず
人々の関心がそれほど高くないこと
に、2人はショックを受けた。世界
規模の環境問題を自分たちだけで解
決することはできなくても、できる
ことをしよう。そう考えた泉さんと
北川さんは、校内のごみ問題に取り
組むことを決意した。2人がまず実
施したのは、校内のごみ問題の実態
を最もよく知る学校用務員へのイン
タビューだった。

「学校用務員の方に、『また来たの？』と驚かれるほど、何度もお話を伺いに行きました。その中で、私たちの学校では、特に部活動で出るごみが分別されていないこと、そして生徒だけではなく、先生方が職員室などで出すごみも時には正しく

読者の先生方がご存知の「イノベティブな生徒たち」をご推薦ください！

ご推薦いただける場合は、右の2次元コードをスマートフォン等で読み取っていただき、フォームに沿ってご推薦内容をご入力ください。



教師たち



京都府・私立
花園中学高校
一貫教育係主任・
中学主任
伏木陽介

伴走していたはずの生徒が 自走を始める感動

泉さん、北川さんには、探究学習の過程で、校内にとどまらず、校外の多様な人たちと出会うことを勧めました。環境問題という大きなテーマの下、具体的にどのような活動をするのか、自分たちで考え、実行していったのは、2人が探究学習に関する様々なコンテストに出場し、他校の生徒やメンター役の教師と交流して、アドバイスをもらえたからだと思います。ただ、コロナ禍の中では、思ったような活動ができず、悩む様子を見せることもありました。2人に限らず、探究学習で壁に直面した生徒に対して、教師ができることは、生徒のそばで一緒に考えることや、校外の人たちの考えや思いを解釈して生徒に伝えることです。そうして伴走しているうちに、アイデアが豊富で未来を信じる力を持つ生徒は、いつのまにか自走を始めます。それが、探究学習で生徒が教師に味わせてくれる感動です。

分別されていないこともあるといった事実が分かりました」（泉さん）

そこで2人は、生徒や教師に向けて校内のごみ問題の現状を伝え、分別を間違えやすいごみの正しい分別方法を説明するポスターを、教師や学校用務員からの助言を生かしながら作成し、校内のごみ箱の近くに掲示した。だが、2人の活動はそれでは終わらなかった。

「ポスターが効果を発揮するのかわ、もしも効果が十分でなければ、どこが問題なのかを知りたいと思いました。そこで、ポスター掲示の前と後で分別率に变化があるのかを調査することにしました」（北川さん）

2人は、教師にごみ問題への意識

や行動に関するインタビューを行い、さらにオンライン上のアンケートフォームを使って、ごみの分別の理解度を測るテストを実施した。そうした調査データと教師や生徒の生の声を踏まえ、2人はごみの分別のマニュアルブックを製作し、校内で公開することにした。今後引き続き分別状況を調査し、ポスターやマニュアルの改善につなげ、さらには自分たちの活動をSNSを通じて他

校に紹介し、広めていく予定だ。

環

境問題に対して、当事者としての危機感を持ってない生徒もまだまだいると、2人は感じている。また、自分たちの活動を引き継ぎ、

広げてくれる仲間を校外に募るこ

とも急務だ。そうした課題を見据えた上で、泉さんは世界規模の問題に前向きに向き合おうとしている。

「私自身、以前は環境問題には全く関心がありませんでした。でも、今は環境問題だけでなく、いろいろな問題を自分事として考えられるようになりました。そうした問題について、知らない人、関心がない人がいるのは当然のことで、そのことに対して不満を抱いていても、仕方がありません。現状を悲観するのではなく、私たちが気づいた者として、その気づきを伝えていけばよいと思っています」

北川さんも、活動を通した自身の変化を自覚している。

「以前は、自分から行動したり、人前で発表したりするのが得意ではありませんでしたが、この活動を通して自分が変わりました。環境問題は、1人の力で解決できるものではありませんが、1人が動かなければ何も変わらない問題でもあります。私が行動を続けられれば、友人や先生、家族が変わるかもしれません。少しでも社会をよりよくするために、自分たちの活動が他者の心に響くものになるように、これからもPDCAを回し続けていきたいと思えます」

大きな課題を前にして、自分の無力さに悲観して立ち尽くすのではなく、微力ながらも自分にできることを行い、その成果を検証し、アプローチを改善する。2人の社会変革のサイクルは、これからも回り続ける。

学校プロフィール

設立 1872（明治5）年
形態 全日制／普通科／共学
生徒数 1学年約410人
2021年度入試合格実績（現浪計）
国公立大は、北海道大、名古屋大、滋賀医科大学、京都大、大阪大などに35人が合格。私立大は、慶應義塾大、同志社大、立命館大、関西大、関西学院大などに延べ453人が合格。

※プロフィールは、2022年3月時点のものです。

3

特集

新学習指導要領、始動！
不断の改善で推進する
生徒主体の
新教育課程

- 巻頭 未来を描く！ 創る！
イノベティブな生徒たち
北川杏菜さん（高校3年生）
泉 怜杏さん（高校3年生）
京都府・私立花園中学高校
- 38 これからの進路指導のための
世の中トレンド解説
トレンド・ワード
カーボンニュートラル
- 56 Reader's VIEW

<https://view-next.benesse.jp/>

本誌記事は、VIEWnext ONLINE のウェブサイトでも
ご覧いただけます。

印刷製本／(株)協同プレス
編集協力／(有)ペンダコ
執筆協力／二宮良太
撮影協力／荒川潤、谷口哲、ヤマガチイキ

※本文中のプロフィールはすべて取材時のものです。また、敬
称略とさせていただきます。 ※本誌記載の記事、写真の無断
複写、複製及び転載を禁じます。
©Benesse Corporation 2022

23

For School Section

24

お勤めの分掌 ▶ 管理職 教務担当 進路担当

指導変革の軌跡

神奈川県・私立関東学院中学校高校

教育ビジョンを軸とした学校改革

#STREAM 教育 # 教師間の目線合わせ # 生物での探究学習

28

お勤めの分掌 ▶ 管理職 教務担当

— 疑問や課題を解決！ 実践につながる！ — 新課程レポート

テーマ 観点別学習状況の評価の実践と軌道修正

大阪府立鳳高校

思考・判断・表現のルーブリック # パフォーマンス課題 # 形成的評価

32

お勤めの分掌 ▶

学年団

担任

輝く学年団を訪ねて

青森県立大間高校 2学年団

教職3年目の学年主任 # 学校の一体化 # 生徒との距離感 # 小規模校

36

お勤めの分掌 ▶ 管理職

学校危機管理 基礎講座

テーマ 著作権とプライバシーの侵害

ICTと著作権 # SARTRAS # オンライン授業での留意点

39

For Teacher Section

40

お勤めの分掌 ▶

教務担当

担任

発問・課題設定をキーに見る 主体的・対話的で深い学び 授業実践

40

英語

埼玉県・私立西武学園文理中学・高校 土屋進一

英語と古文のコラボ授業 # パフォーマンス課題 # CLIL

44

数学

兵庫県立三田祥雲館高校 藤原 雄

反転授業 # 予習用動画 # ルーブリック # 個と集団の往還

48

お勤めの分掌 ▶

進路担当

学年団

担任

マイ・ストーリーを語る生徒を育む進路指導

北海道旭川永嶺高校 進路指導部と3年次団

3年次1学期 志望理由書作成の支援

生徒への問いかけ方 # 進路への意識づけ # 希望と志望のズレ修正

50

お勤めの分掌 ▶

進路担当

学年団

担任

変化の激しい社会に飛び込む生徒に伴走 クローズアップ！ 就職指導

就職指導の実態と課題

3年生の就職指導スケジュール表 # 教師の役割分担 # 早期化

52

お勤めの分掌 ▶

学年団

チーム新課程学年主任

4月5月6月のポイント

先生 SNS # 1学年主任 # 新課程応援

不断の改善で推進する 生徒主体の 新教育課程

いよいよ高校の新学習指導要領の実施が、年次進行の形でスタートしました。2022年度入学生は、中学校生活のうち約2年間をコロナ禍の中で過ごし、また、GIGA スクール構想の前倒しにより、「1人1台端末」の環境で学ぶなど、今回の学習指導要領の改訂の背景にある、社会の変化の激しさを身をもって実感してきたことと思います。

そのような経験をしたからこそ、生徒も、新学習指導要領が新しい時代に必要となる資質・能力の育成を目指していることに共感し、それを実現する新教育課程に期待を膨らませるのではないのでしょうか。全国の先生方がそうした期待に応えていかれるよう、今年度の本誌の特集では、新学習指導要領に基づく教育実践を定期的に取り上げていきます。

初回は、新教育課程の実施に臨まれる現場の先生方へのメッセージの発信からスタートいたします。ぜひ、ご覧ください。

VIEWnext 編集部 統括責任者 柏木 崇

P.4 メッセージ

自らの生き方を選択できる力を育むため、生徒を主語に教育活動を展開する
独立行政法人教職員支援機構 理事長 荒瀬克己

P.8 実践事例1 千葉県立千葉北高校

徹底した議論を通じて教師間で方向性を共有したことが、
ルーブリックの作成や教育活動の改善を進める土台に

P.12 実践事例2 静岡県立静岡東高校

「総合的な探究の時間」で資質・能力を育む指導と評価を模索し、
その経験を新教育課程での教科指導に生かす

P.16 実践事例3 広島県立^{かなべあさひ}神辺旭高校

資質・能力の育成を目指し、ルーブリックに基づいた
指導と評価の改善をICT活用と互見授業で推進

P.20 本特集のテーマのnext 実践事例1～3の学校の代表者による座談会

新学習指導要領下で目指すべき授業と学習評価を
実現するために必要な校内体制とは

千葉県立千葉北高校 進路指導主事 和泉雄介 / 静岡県立静岡東高校 教務主任 ^{なかうえ}中上明仁
広島県立神辺旭高校 主幹教諭 徳本孝治

自らの生き方を選択できる力を育むため、 生徒を主語に教育活動を展開する



独立行政法人教職員支援機構 理事長

荒瀬克己 あらせ・かつみ

京都府・京都市立堀川高校長、京都市教育委員会教育企画監、大谷大学教授、関西国際大学学長補佐などを歴任。現在、中央教育審議会副会長、初等中等教育分科会長を務める。2021年1月に出た『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」の取りまとめに尽力した。

いよいよ2022年4月から、年次進行の形で高校の学習指導要領が実施される。その理念を実現するために、管理職やミドルリーダーが発信すべきメッセージ、講ずるべきアクションはどのようなものか。今回の学習指導要領の改訂に携わった荒瀬克己先生に、学習指導要領に関する発信を続けてきたVIEWnext編集部統括責任者の柏木崇が聞いた。

在り方生き方を考え、
自ら選択・実行する力を育む

柏木 まずは、「資質・能力の3つの柱」「カリキュラム・マネジメント」など、新しい学習指導要領における重要な事項のすべての基盤となる考え方として示されている「社会に開かれた教育課程」について、改めて確認できればと思います（図1）。

荒瀬 選挙権年齢が18歳となり、2022年4月からは、成年年齢が20歳から18歳に引き下げられることを踏まえると、「社会に開かれた」という言葉は、高校にとつ



VIEWnext 編集部
統括責任者 **柏木 崇**

年間100人以上の高校教師に取材をし、本誌及び講演やワークショップ等を通じて、現場の実践を始めとする教育情報と、これからの学校教育のあり方を問うメッセージを発信している。

てはとても重いものです。

「社会に開かれた教育課程」とは、私たちが今まさに目指している持続可能な社会、その担い手として必要な資質・能力の育成を生徒に保障する教育課程であり、その実現のために社会と積極的に連携する教育課程と言えます。変化の激しい社会の中で、他者とかか

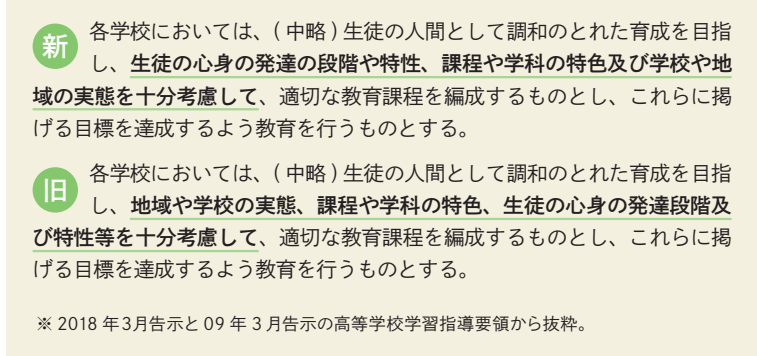
※プロフィールは、2022年3月時点のものです。

不断の改善で推進する 生徒主体の新教育課程

図1 学習指導要領改訂の方向性



図2 新・旧学習指導要領における第1章総則第1款1の比較



わりながら、自分はどうのように生きていきたいのか。そうしたことを考え、生き方を自ら選択・決定して実行していける力を育む教育課程が求められるのだと思います。したがって、地域との連携も、地域の活性化といった限定的な目的のために行うのではなく、生徒がどのような資質・能力を身につけるための連携なのか、生徒を主

語に考えなければいけません。柏木 「地域連携」をテーマとした『VIEWnext』高校版2021年12月号の特集でも、学校と地域が互いの連携の目的をしっかりと共有すれば、生徒の資質・能力の育成につながる連携を実現させることができると、実践校の先生方がおっしゃっていました。荒瀬 「社会に開かれた教育課程」

を実現するためには、教師も社会とつながる必要があります。ご自分の専門分野が、生徒が社会を生きる中でどう活かされるか、あるいは、これからの社会を生きる生徒にとってどのような意味を持つものであるか、こういった視点に基づいて、ご自身で、また、同僚と話し合っ、考究していただくことが、生徒が生きるための、も

この見方・考え方を養うことにつながるでしょう。

生徒を主語に据えることが教育課程編成の前提

柏木 先ほど、荒瀬先生のお話の中に、「生徒を主語に」というキーワードが出てきました。「生徒を主語に」とはどういうことか、教えてください。

荒瀬 新学習指導要領と旧学習指導要領の第1章総則第1款1を比較してみると、分かりやすいかと思いますが（図2）。新学習指導要領では、教育課程編成においては、まず生徒の心身の発達の段階や特性を考慮することを求めています、子どもに視点を置いた記述になっています。何よりもまずは生徒の現状を見ようという呼びかけであり、新学習指導要領の大きな特徴だろうと私は捉えています。

また、新学習指導要領には、初めて「前文」が設けられました。前文には、学習指導要領の理念が示されていますが、私が特に注目しているのは、「これからの学校

には、(中略)一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である」という記述です。生徒

が自分のよさや可能性を認識できるようになることが、教育課程編成の大前提だという非常に重要な記述だと思えます。

柏木 新学習指導要領では、新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた科目として、「公共」や「情報I」などの多くの新たな科目が設置されました。そのため、教育課程の編成に苦慮された学校も少なくなかったようです。

荒瀬 現場の苦勞はお聞きします。そうして編成された教育課程ですから、一人ひとりの生徒が自分のよさや可能性を認識できるこ

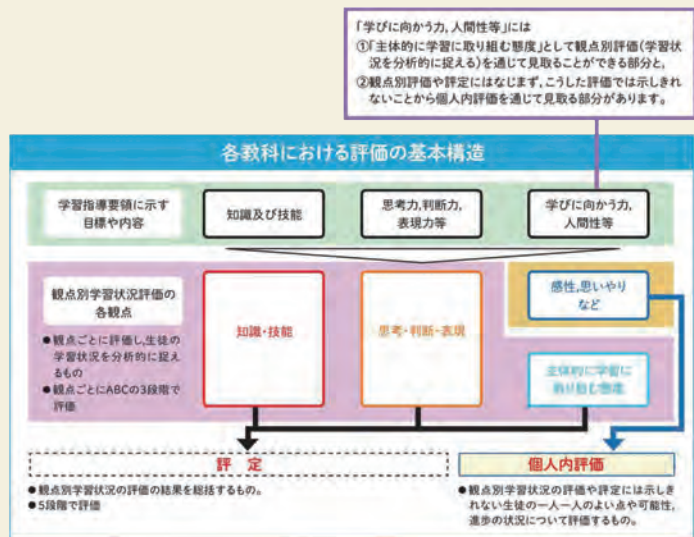
となど、学習指導要領の趣旨の実現に向け、校内で目標を共有して進めていただきたいと思います。

学校の生徒に必要な「学力」を追究する

荒瀬 よさや可能性は、周りがその人に気づかせることが大切です。自分のよさや可能性に気づかせてもらうことで、次第に自分でも自分のよさや可能性に気づけるようになり、他者のよさや可能性への理解も進むのではないでしょう。授業等での協働も、そういったことにつながっていくことが重要だと思えます。

生徒が自分のよさや可能性に気づけるようになるためには、教師の授業の進め方が重要になります。例えば、教師が基礎的な事項や見方・考え方をしっかりと伝える。その後は、生徒が自分の興味・関心を基に主体的に学んでいけるように、学びを自己調整するような問いかけを教師が行う。そのためには、この生徒にとってどういう学びが必要か、生徒が望む生き

図3 学習評価の基本構造



*文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター「学習評価の在り方ハンドブック 高等学校編」を抜粋して掲載。

方や在り方を踏まえて、ともに考えることになるでしょう。そうした教師の支援を受けながら、自ら学ぶことを通して、生徒は自分の存在を肯定的に捉えていきます。

一斉授業で教科書を最後まで終わらせることを優先するのではなく、一人ひとりの生徒にどのような学びが必要かを考え、自ら学ぶように背中を押す支援を充実さ

せることが、生徒を主語にした授業への転換です。

柏木 学校によって、生徒の希望進路や高校入学までに習得している学力は様々です。自ら学びに向かっているようにするために、最低限身につけるべき知識・技能や各教科等の見方・考え方はどのようなものか、育成を目指す資質・能力とひもづけながら明らか

不断の改善で推進する 生徒主体の新教育課程

にしていく必要がありますね。

荒瀬 その通りです。「基礎学力」というけれども、自校の生徒にとってそれはどのようなものなのか、各校で考えることが重要です。私が校長を務めた京都市立堀川高校では、教科の力だけでなく、探究する力も基礎学力です。基礎学力についても、スクール・ポリシーの中で設定し、生徒、保護者と共有することが必要だと思います。

生徒に自分のよさや可能性に気づかせる評価を

柏木 生徒を主語にした授業では、一人ひとりの生徒に対する教師のかかわりがこれまで以上に重要になりますね。

荒瀬 教師のかかわりの中で、生徒に自分のよさや可能性に気づかせることができる最大のチャンスが評価です。通知表に記載する評価や評定だけでなく、日常的な声かけも、生徒を応援する大切な評価です。「こんな考えを持ってすごいね！」と認めることはもちろん、「どうしてそのように考える

ようになったの？」と尋ねることも、生徒の成長を評価することもできます。ルーブリックについても、作って終わりではなく、それが生徒を励ますものになっていくかどうか、検証を続ける必要があります。その際、複数の教師、そして生徒もかかわりながら、一緒に評価規準を考えていくことで、自校の生徒の実態に即した評価が実現するはずです。

柏木 「学習評価」をテーマとした『VIEWnext』高校版21年10月号の特集で紹介した「標準ルーブリック」の開発の取り組みのように、生徒の成果物を基に自校の生徒に合った評価を追究する学校も出てきました。一方、知識・技能の習得が苦手で、評定ではよい結果が出にくい生徒が次の学習に向かえるようにするためにはどうしたらよいか、悩んでいる先生方も多くいらっしゃいます。

荒瀬 人が人に対して行う評価は、そもそも完全ではありません。評定ではよい結果が出にくい生徒に対しても、「評定には表れないよいところが、あなたにはたくさ

んある」「あなたの持っているよいところを発揮できるように、授業、評価の場を考えていきたい」と生徒に視点を置くことで、生徒を主語にした評価になっていくのではないのでしょうか。

柏木 学習評価の基本構造の中に明記されているように(図3)、いわゆる個人内評価として、思いやりや人間性といった、評定には結びつかないかもしれないけれども、他者とかかわりながら持続可能な社会づくりを担うために欠かせない資質・能力を見取り、伸ばしていくことが求められるのです。授業のあり方、そして評価の考え方も、生徒を主語にバージョンアップさせることが大切なのだと改めて実感しました。

荒瀬 そのためにも、教師の心理的安全性を担保することが不可欠

です。心理的安全性が担保されていないと、例えば同僚に相談したり、不安を打ち明けたりすることもできず、バージョンアップに対しても後ろ向きになってしまします。それは必ず、生徒にも影響するでしょう。先生方の心の余裕の保障を、学校だけでなく、社会全体で考えていくべきです。

これからの学校は、いつ、どのような教育活動で、どのような資質・能力の育成を目指すのかを整理し、その成果や課題を評価・検証するカリキュラム・マネジメントの視点が求められます。生徒の資質・能力の育成につながるかどうかという視点、すなわち生徒を主語に教育活動の優先順位をつけていき、カリキュラムを精選していくことで、先生方の負担を減らすことが必要です。



一人ひとりの生徒が
自分のよさや可能性を
認識できるようにすることが
教育課程編成の大前提です

実践事例 1

千葉県立千葉北高校は、2019年度に新教育課程の編成に着手し、約1年かけて完成させた。21年度には、同校が育成を目指す資質・能力である「7つの北高力」とグラウンドデザインを策定。いずれも策定の過程において教師間で徹底的に議論し、自校が目指す方向性を共有した。現在は、「7つの北高力」に基づいたルーブリックやシラバスの作成を、各教科で進めている。

徹底した議論を通じて教師間で 方向性を共有したことが、 ルーブリックの作成や 教育活動の改善を進める土台に

千葉県立千葉北高校

学校概要

設立 1975（昭和50）年
形態 全日制／普通科／共学
生徒数 1学年280人、2・3学年320人
2021年度入試合格実績（現役のみ） 国立大は、山形大、千葉県立保健医療大に2人が合格。私立大は、青山学院大、学習院大、國學院大、駒澤大、昭和女子大、成蹊大、成城大、専修大、中央大、東京理科大、東洋大法政大、明治大などに延べ388人が合格。

「多様な進路への対応」を
基本方針に、新教育課程を編成

2019年11月、千葉県立千葉北高校は、教務部と各教科の代表から成る「教育課程検討委員会」（以下、検討委員会）を中心に、新教育課程の編成に着手した。同委員会では、「多様な進路に対応できるバランスのよい教育課程」という、新教育課程の編成方

針を定めた。当時、同校にはグラウンドデザインがなく、新教育課程を編成するにあたって、教師間の目線をそろえるための基本方針が必要だったからだ。その方針の下で行われた議論を通じて合意形成を図りながら、生徒の希望進路の実現に向けて適切な学びを提供できる教育課程を策定した。

例えば、看護系や家政系の大学志望者には、これまで文系を選択することを推奨していたが、文系の現行の教育課程では、生物・化学のいずれかの履修となるため、受験校の選択肢を狭めてしまい、大学での学びに必要な科目を学習する機会を提供できていない状況だった。そこで、新教育課程では、文系でも生物や化学、地学、数学Cを複数選択できるようにした。科目選択の幅を広げたねらい

を、教務主任の森谷一雅先生は次のように説明する。

「大学で文理融合の学びや入試の多様化が進む中、科目選択を柔軟にすることが、生徒の可能性を広げると考えました」

基本方針の下、各学年の履修科目と単位数を算出。それを教務部が集約し、新教育課程の原案を作成した。各曜日の授業時数に差が生じないようにするなど、検討委員会でも議論を重ね、8つの試案を経て、21年3月、1学年32単位、2・3学年31単位の新教育課程を完成させた（図1）。



進路指導主事、
学校改善プロジェクトチーム
和泉雄介
いずみ・ゆうすけ
教職歴13年。同校に赴任して8年目。外国語科（英語）。



教務主任、
教育課程検討委員会
森谷一雅
もりや・かずまさ
教職歴14年。同校に赴任して9年目。理科（生物）。



校長
勝田幸裕
かつた・ゆきひろ
教職歴37年。同校に赴任して1年目。

※プロフィールは、2022年3月時点のものです。

図1 千葉県立千葉北高校 2022年度入学者 教育課程

教科	科目	標準 単位数	1年	2年	3年	
					文系	理系
国語	現代の国語	2	2			
	言語文化	2	2			
	文学国語	4		5		
	論理国語	4			4	4
	古典探究	4			4	
	*国語探究				(2)	
地理 歴史	地理総合	2	2			
	歴史総合	2		2		
	日本史探究	3			(4)	
	地理探究	3			(4)	
	世界史探究	3			(4)	
	*発展日本史				(2)	
	*発展地理				(2)	
*発展世界史				(2)		
公民	公共	2		2		
	政治・経済	2			2	(2)
	*公民探究				(2)	
数学	数学Ⅰ	3	3			
	数学A	2	2			
	数学Ⅱ	4		4		
	数学B	2		2		
	数学Ⅲ	3				4
	数学C	2			(2)	3
	*数学探究				(2)	
理科	化学基礎	2	2			
	生物基礎	2	2			
	物理基礎	2		(2)		
	地学基礎	2		(2)		
	物理	4				(4)
	化学	4			(4)	4
	生物	4			(4)	(4)
	地学	4			(4)	
	*発展物理					(2)
	*発展化学				(2)	(2)
	*発展生物				(2)	(2)
*発展地学				(2)		
保健 体育	体育	7~8	3	3	2	2
	保健	2	1	1		
	*生涯スポーツ探究				(2)	
芸術	音楽Ⅰ	2	(2)			
	音楽Ⅱ	2		(2)		
	音楽Ⅲ	2			(2)	
	*音楽探究				(2)	
	美術Ⅰ	2	(2)			
	美術Ⅱ	2		(2)		
	美術Ⅲ	2			(2)	
	*美術探究				(2)	
	書道Ⅰ	2	(2)			
	書道Ⅱ	2		(2)		
書道Ⅲ	2			(2)		
*書道探究				(2)		
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3			
	論理・表現Ⅰ	2	2			
	英語コミュニケーションⅡ	4		4		
	論理・表現Ⅱ	2		2		
	英語コミュニケーションⅢ	4			4	4
	論理・表現Ⅲ	2			3	2
*英語探究				(2)		
家庭	家庭基礎	2	2			
	*生活探究				(2)	
情報	情報Ⅰ	2	2			
	情報Ⅱ	2			(2)	
教科単位数合計			30	29	29	29
総合的な探究の時間			3~6	1	1	1
特別 活動	ホームルーム活動		1	1	1	1
	合計単位数		32	31	31	31

注)「*」は学校設定科目。 ※学校資料を基に編集部で作成。

議論を尽くすことで、
生徒主体の教育課程に

1年次の単位数については、特に議論を尽くした。同校は学校行事や部活動が盛んであるため、これらの活動時間を確保しようと、授業終了時刻は全学年同じにする予定だった。そこで当初は、新教

育課程も現行課程と同様、各学年31単位とすることにしたが、必修科目の「情報Ⅰ」を入れるため、1年次のみ32単位とした。だが、議論を重ね、7つめの試案ができ

た21年1月、1年次を31単位にする方法を再検討しようという話が教務部内で持ち上がった。各教科に再度の検討を呼びかけ、選択科

目の増加や保健体育の単位数減など、様々な方法を試みた。しかし、どの方法も問題が生じることが分

「誰もが納得できる教育課程を

編成するために、あらゆる可能性を検討しました。時間はかかりましたが、議論を尽くしたことで、教師間で問題意識を共有すること

た」(森谷先生)

議論を重ねる中で、教師の発言にも変化が表れた。当初は他教科に対して意見を言いづらい雰囲気があったが、議論が深まるにつれて、「理系でも数学Ⅲを選択にし

ではどうか」などと、教育課程全体を俯瞰した提案や生徒目線での意見が出るようになった。20年度から同委員会に加わった和泉雄介先生は、次のように語る。

「生徒のことを考えた意見だとしても、他教科のことにはなかなか口を出しづらいものです。しかし、あらゆる角度から、時間をかけて教育課程を検討する中で、自然と率直に意見を述べ合えるようになっていきました」

教務部が的確にマネジメントしたことも功を奏した。

「教務部からは、教育委員会へ新教育課程を提出する期日から逆算した検討スケジュールと、各教科で検討すべき事項が示されました。見通しや論点が明確だったことで、意見を出しやすかったのだと思います」（和泉先生）

新教育課程の編成の意図や議論の過程は、文書として残した。議論を尽くした編成の過程を明文化することで、今後の改訂時に検討の土台としたり、異動してきた教師に新教育課程に込めた思いを引き継いだりするねらいがある。

教師のボトムアップにより、 ブランドデザインを策定

21年6月には、千葉県教育委員会からの通達を受けて、ブランドデザイン（以下、GD）とスクール・ポリシー（以下、SP）の策定に着手した。そこで、学校内の諸課題について議論する組織体である「学校改善プロジェクトチーム」（以下、PT）が、策定までの工程を整理し、まずは生徒・教師・保護者にアンケートを実施。生徒が身につけるべき資質・能力や、同校が強化すべき点などを調査し、その結果と職員会議での議論も踏まえ、育成を目指す資質・能力を、「徹底力・課題発見力・思考力・実践力・創造力・協働力・自己改善力」の7つに設定した。その「7つの北高力」を軸としたGD・SPを策定し、22年3月、「千葉北GD」にまとめた。

GDの策定を受けての新教育課程の変更は行わなかった。それは、21年度に赴任した勝田幸裕校長の考えによるものだ。

「本来、GDを踏まえて新教育

図2 各教科のルーブリック 理科

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
7つの北高力	徹底力・課題発見力	思考力・実践力・創造力	協働力・自己改善力
評価基準	A 十分満足できる (探究・活用)	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しを持って観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に主体的にかかわり、見通しを持ったり、それまでの過程を見直したり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	B おおむね満足 できる(習得)	見通しを持って観察、実験などを行い、得られた結果を分析することができる。	自然の事物・現象にかかわり、見通しを持ったり、それまでの過程を見直したり、振り返ったりすることができる。
	C 努力を要する (未達)	見通しを持って観察、実験などを行うことや、得られた結果を分析するための努力を要する。	自然の事物・現象にかかわることや、見通しを持ったり、それまでの過程を見直したり、振り返ったりするための努力を要する。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査（知識を問う問題） 単元テスト（知識を問う問題） プリント（記述分析） 実験、観察 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査（論述等の問題） 単元テスト（論述等の問題） レポート、プリント（記述分析） 	<ul style="list-style-type: none"> レポート、プリント（記述分析） 授業中の発言 教師による行動観察 生徒の自己評価や相互評価

上記は、理科のルーブリック。現在も改良のための議論を重ねている。「7つの北高力」を3観点それぞれにあてはめ、文部科学省「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」の別紙5に示された「各教科等の評価の観点及びその趣旨」を基に、その教科で育成を目指す資質・能力を設定した上で、ルーブリックの作成を進めた。しかし、3観点と、それぞれにリンクする「7つの北高力」の整合を図ることに難航しているという。

※学校資料を基に編集部で作成。

不断の改善で推進する 生徒主体の新教育課程

課程を編成すべきですが、新教育課程は既に完成していました。GDの策定に専念したいと考え、新教育課程は変更しないと本校の教師に伝えました。重要なのは、教師自身が自校の進むべき道を考えることです。本校の方向性は、新教育課程の編成の過程で議論を尽くしていたので、GDにもそれが反映されると考えましたし、実際、新教育課程とGDは根底でつながるものとなりました」

3 観点と「7つの北高力」を結びつけたルーブリックを作成

現在は、「千葉北GD」を踏まえ、観点別学習状況の評価の3つの観点（以下、3観点）と各観点に対応する「7つの北高力」を示し、それぞれ3段階で評価するルーブリックを、教科ごとに作成している（図2）。そして、それを基に各科目のシラバスを作成する予定だ。

各教科のルーブリックは、「7つの北高力」を強く意識づけるものとするために、3観点と「7つ

の北高力」をリンクさせる方針とした。そこで、国立教育政策研究所の学習評価に関する資料（*1）に示された評価規準に「7つの北高力」を落とし込む形で、各教科のルーブリックの作成を進めようとしたが、3観点と「7つの北高力」の整合を図るのに苦労した。勝田校長は、そうした試行錯誤に意味があると語る。

「本校で学ぶ意義を生徒や保護者が理解するために、そして、GDを具現化するために、『7つの北高力』と結びついた評価規準が必要だ。大いに悩みながらも、教師自らが考え抜いてつくるからこそ、授業で活用できる評価規準になると期待しています」

各科目とも、22年度のスタートに向けてシラバスの準備を進めている。2学期以降のシラバスは、1学期での運用結果を踏まえて順次改定していく。

「1学期に運用し、よかった点は2学期以降も継続し、不具合があったのならば改善する方針を進めました。試行錯誤をいとわず、PDCAサイクルを回していきま

す」（勝田校長）

議論する文化が生まれた今こそ、教科横断型授業を実施したい

今後は、学校行事や部活動などを含むすべての教育活動と「7つの北高力」を結びつけ、「7つの北高力」の育成と評価を進めていく考えだ。

授業改善も大きな課題だ。特に、主体的・対話的で深い学びや探究的な学びを充実させるためには、家庭学習のあり方が重要になる。そこで、ICTを活用する課題や反転学習の導入など、あらゆる選択肢を検討していくという。

さらに、カリキュラムマップ（*2）などを使って、各教科の学習内容やそれを通じて育成を目指す資質・能力についての情報共有を

進め、教科横断型授業を行うことも視野に入れている。

「教育課程の編成やGDの策定を通して教科内の目線がそろった今こそ、教科間の連携が強化できるのではないかと思っています。教科横断型にすることによる授業の相乗効果を上げつつ、教師の大きな負担とならない授業の方法を検討していきます」（勝田校長）

何より重要なのは、GDに基づいた授業改善や学習評価を実質化することだと、森谷先生は語る。

「現状で最善と思える教育課程やルーブリックができましたが、それらを実施・運用していく中で様々な課題が出てくるでしょう。課題を一つひとつクリアしながら、新学習指導要領のねらいと『千葉北GD』の実現に近づいていきたいと思っています」

4月以降の課題

- 教科ごとにルーブリックを作成し、それを基に、各科目のシラバスを作成する
- 学校行事や部活動などにおいて育成を目指す「7つの北高力」をそれぞれ明確にし、それらの評価を行う

*1 『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料。

*2 卒業までの到達目標に、各教科・科目がどのように関係するのかを示したものの。

「総合的な探究の時間」で

資質・能力を育む指導と評価を

模索し、その経験を

新教育課程での教科指導に生かす

静岡県立静岡東高校

学校概要

設立 1963 (昭和38) 年
形態 全日制／普通科／共学
生徒数 1学年280人
2021年度入試合格実績(現役のみ) 国公立大は、旭川医科大学、北海道大、東北大、筑波大、横浜国立大、静岡大、浜松医科大学、名古屋大、京都大、神戸大などに122人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、早稲田大、同志社大、立命館大などに延べ717人が合格。

静岡県立静岡東高校は、2019年度に策定した育成を目指す資質・能力とグランドデザインを基に、22年度から授業時間を50分間に変更するという課題を乗り越えて新教育課程を策定した。先行実施した「総合的な探究の時間」では、資質・能力の育成を図る授業づくりと学習評価の方法を模索。それを踏まえて21年度、教科単位で学習評価の方法を検討し、試行した。

教師アンケートの結果を踏まえ、
育成を目指す資質・能力を設定

2018年度、静岡県立静岡東高校は、新学習指導要領の実施や大学入試改革の対応に向けて動き出した。少子化や施設の老朽化、近隣校の特色化といった環境変化もあり、生徒募集を強化するため、「未来構想委員会」を設け、育成を目指す資質・能力として「10の資質・

能力」を定め、グランドデザイン(以下、GD)の案を作成した。

19年度はまず、その案の本格的な検討に向けたアンケートを全教師に実施。その結果を受け、10の資質・能力のうち、生徒が既に身につけていると思われるものを整理し、課題設定解決能力・論理的思考力・自己実現力・自己管理能力・発信力・自己肯定力・社会参画力の「7の資質・能力」に精選した。GDは、育成を目指す生徒像として、「主体的に人生を切り拓き、高い志を持って社会に貢献する人材」を掲げるとともに、その達成に向けた5つの柱(授業改善と学力向上、自主自律の精神と豊かな人間性の育成など)を設定した。加えて、教師へのアンケートの結果で、生徒に優先して身につけさせたい資質・能力として上がった



校長
鈴木伸彦
すずき・のぶひこ
教職歴37年。同校に赴任して1年目。



教務主任
中上明仁
なかうえ・あきひと
教職歴21年。同校に赴任して4年目。理科(化学)。



探究活動推進室主任
湯川淑子
たくわ・としこ
教職歴28年。同校に赴任して4年目。英語科。



教務課
神谷隼基
かみや・としき
教職歴6年。同校に赴任して2年目。数学科。

た「課題設定解決能力」と「論理的思考力」の育成を目標に、「総合的な探究の時間」(以下、「総合探究」)を実施。それまでの「総合的な学習の時間」は体系的な取り組みになっていなかったが、「総合探究」はGDの下、SDGsをテーマとして授業案やルーブリックの作成を進めた。そうして、資質・能力を育成する授業づくりを、まずは「総合探究」で模索し、20年度を迎えた。

※プロフィールは、2022年3月時点のものです。

不断の改善で推進する 生徒主体の新教育課程

「議論の中で、GDで『授業・部活動・学校行事等への主体的な取り組み』を掲げている以上、総単位数を増やして生徒から放課後の時間を奪うべきではないとの意見が出ました」50分授業の編成下では、現行よりも15分早く6限目が終わる。その時間は、課外活動や部活動など、生徒の主体的な活動の時間に充てることにした。

を重ね、それまでの総単位数を保ちつつ、22年度から授業時間を現行の65分間から50分間に変更したと、教務主任のなかうえ明仁先生は振り返る。

代表者から成る「教育課程検討委員会」を設置し、新教育課程の編成に着手(図1)。議論を重ね、それまでの総単位数を保ちつつ、22年度から授業時間を現行の65分間から50分間に変更したと、教務主任のなかうえ明仁先生は振り返る。

GDをよりどころとして、総授業時数を決定

図1 静岡県立静岡東高校 2022年度入学者 教育課程

教科	科目	標準単位数	共通		文系			理系	
			1年	2年	3年			2年	3年
					選択A計5	選択B計3	選択C計3		
国語	現代の国語	2	2						
	言語文化	2	3						
	論理国語	4		3					3
	文学国語	4		3				2	
	古典探究	4		3	4			2	2
	古典探究演習	3				3	5		
地理歴史	地理総合	2		2				2	
	地理探究	3						1	3
	歴史総合	2	2						
	日本史探究	3		4*	4*				
	世界史探究	3							
	日本史探究演習	2				2			
公民	公共	2		2				2	
	政治・経済	2							
数学	数学I	3	3						
	数学II	4	1	2				3	
	数学III	3						1	2
	数学A	2	2						
	数学B	2		2				2	
	数学C	2		1					2
	数学IⅡABC演習	2				5			2
理科	物理基礎	2	2						
	物理	4						3*	4*
	化学基礎	2	2	1					
	化学	4						3	4
	生物基礎	2		2				2	
	生物	4							
	化学基礎演習	1				1	3		
	生物基礎演習	2				2			
保健体育	体育	7~8	2	2	3			2	3
	保健	2	1	1				1	
芸術	音楽I	2	2						
	美術I	2							
	書道I	2							
	音楽I演習	2				2			
	美術I演習	2				2			
外国語	英語コミュニケーションI	3	3						
	英語コミュニケーションII	4		4				3	
	英語コミュニケーションIII	4			4				4
	論理・表現I	2	2						
	論理・表現II	2		2				2	
	論理・表現III	2			2				2
	英語コミュニケーションII演習	3							
論理・表現IⅡ演習	3				3				
家庭	家庭基礎	2	2						
情報	情報I	2	2						
校外学修活動 専門教養講座			1~6	(1~2■)	(1~2■)	(1~2■)		(1~2■)	(1~2■)
共通教科計			31~33	31~33	20~22			31~33	31~33
教科合計			31~33	31~33	20~22	5	3	3	31~33
東陵セミナー			3~6	1	1		1		1
合計			32~34	32~34			32~34		32~34
特別活動	ホームルーム活動		1	1			1		1

注1) *の選択科目は、2年次と3年次で、同一の科目を選択すること。注2) ■は、任意の選択であり、修得した場合、修得単位数が最大2単位上乗せされる。 ※学校資料を基に編集部で作成。

また、「7の資質・能力」を新学習指導要領で示されている「資質・能力の3つの柱」に沿って分類すると、「知識・技能」に対応する資質・能力が含まれていなかったが、そのことについて、鈴木伸彦

校長は次のように語る。「確かに本校の生徒は、中学校までの学習で、一定レベルの知識・技能を既に身につけていると言えますが、高校では、大学や社会での活躍を見据えて、さらに高いレ

ベルの知識・技能を習得する必要があるはずですが、本校で身につけるべき知識・技能とは何か、どのような内容であるべきかを、教育活動を実践する中で、今後も議論を重ねていく必要があるでしょう」

定期考査等は観点別の作問で、
学習や指導の改善点を見いだす

21年度は、観点別学習状況の評価（以下、観点別評価）の充実に
図った。教務課の神谷隼基先生は、
担当する1年生の数学で、5人の
教科担当と、育成を目指す資質・
能力を評価するための定期考査や
校内実力試験の問題を協議した。
その結果、現行課程の4観点のう
ち、「知識・理解」「技能」「思考・
判断・表現」をそれぞれ評価する
問題を作成。「技能」を評価する
問題は、「知識・理解」の応用問
題の位置づけとし、「思考・判断・
表現」を評価する問題は、授業で
扱わなかった題材の問題や大学入
試問題を改変した問題とした。

試験後には、正答率に応じて、
「基礎問題に取り組んでみよう」
「発展問題に挑戦しよう」などと、
生徒個別に学習指導を行った。
「テストを重ねることに、生徒
から、『学習法に不安があったの
で、先生のアドバイスが役に立っ
た』といった声が聞かれるよう
になりました」（神谷先生）

観点別の出題によって、指導の

改善点も見えやすくなった。例え
ば、考査結果を分析すると、「思考・
判断・表現」の問題に無解答の生
徒が一定数いることが分かった。
そこで教科内で話し合い、テスト
の返却時にその問題の解法を示し、
生徒に段階を追って解き直しをさ
せることで、生徒がつまづいてい
る点を解消しやすくなった。

発展的な課題のレポートで、
主体性を客観的に評価

「関心・意欲・態度」の評価は、
パフォーマンス課題で行った。「江
戸時代の算額（*）」を例にした作
問」や「ポーカーの役が出る確率
と新しい役の考案」といった課題
を出し、生徒に事前に示したルー
ブリックに沿って評価した。

パフォーマンス課題を通じて、
数学の面白さを感じ、意欲的に取
り組む生徒や、模擬試験の成績が
伸びている生徒が増えている。
「パフォーマンス課題からは、
課題に粘り強く取り組んでいる
か、試行錯誤しているかといった

図2 「東陵セミナー」（総合的な探究の時間） 2年次 授業案（抜粋）

歴史をたずね		半室に開いかけ		ひとりひとりが明日を拓く												
1. 課題設定・リソース・フィードバック		2. 問題設定・リソース・フィードバック		3. ポスターセッション												
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
R3 1,2年生 (58,59期生) 東陵セミナー (課題探究) 授業案 ① 2月18日 (金) 13:55~14:55																
内容	1年間の探究学習を振り返り、今後の展望を持つ															
形態	HR 教室										教室					
観点	知識・技能					関与力・知識習得力										
	思考力・判断力・表現力等					課題設定解決能力・論理的思考力・関与力										
	学びに向かう力、主体性等					自己実現力・自己管理能力・自己肯定力・社会参加力・協働力										
準備物	配布→回収			1,2年生:「SDGs 探究学習自己評価表」			探究室									
	配布→Classi															
	その他															
活動																留意点
1年生																代表チームの生徒(裏面参照)
13:55	本時の説明															・ポスターを持って、発表する教室の廊下に行き、待機する。
14:00~14:20	2年生の代表チームによる発表+質疑応答															2年生:13:55 1年生:14:25
14:20~14:50	探究学習の振り返り															・発表5分程度 質疑応答5分程度 20分の時間を有効活用してください。
	・「SDGs 探究学習自己評価表」(両面)記入 ・作成したポスターの写真をClassiポータル「ストーリー」に記録。ストーリーの探究学習へ入力。 Classiのストーリー、探究学習に「探究学習を通して学んだこと」を記入。															・発表終了後、自分の教室に戻る。 ・探究学習自己評価表「探究学習リフレクション(Classi)」は自宅で購入して担任の先生に提出する。 生徒への連絡 ・作成したポスターの写真を撮影しClassiポータルに必ず記録する。 ・フィールドワーク先に可能な範囲で、お礼を兼ねて、ポスターの写真を送付する。
2年生																
13:55	活動教室に移動・本時の説明 探究学習の振り返り															
	・「SDGs 探究学習自己評価表」記入(両面) 自分のHRに移動															
14:30~14:50	1年生の代表チームによる発表+質疑応答															
14:50	Classiに本時の記録をする「探究学習を通して学んだこと」 *作成したポスターの写真をClassiポータルに記録(各自) *ポスターはCC教室にある箱に返却する。															

「東陵セミナー」における育成を目指す資質・能力は、観点別評価の3観点と探究学習の意義を考え、知識習得力などを含めた10の資質・能力とした。 ※学校資料を抜粋して掲載。

えています」（神谷先生）

「総合探究」で行った
観点別評価を、教科指導で応用

育成を目指してきたことが見取り
やすく、それらが、新学習指導要
領では、『主体的に学習に取り組
む態度』として評価の観点の1つ
になったのだと捉えています。新
学習指導要領の趣旨は十分理解で
きますし、それを実現すれば、生
徒の力をより伸ばしていけると考

21年度には、「東陵セミナー」
と名づけたSDGs探究学習が、
「総合探究」の自校のスタイルと

* 数学の問題を考案し、奉納した絵馬のこと。

不断の改善で推進する 生徒主体の新教育課程

して全校にほぼ定着した。先進校である静岡県立三島北高校の授業案を参考に、探究活動推進室が授業案を作成(図2)。それを基に、担任・副担任が授業を進めた。授業案には、活動の内容や留意点に加えて、自校が育成を目指す資質・能力と、それらが「資質・能力の3つの柱」のどれに該当するのかを明示されており、教師はそれらを意識しながら授業を進めることができた。

ルーブリックは、観点別評価の3観点と「7の資質・能力」、SDGsの理念を踏まえて作成。①調査研究(調査・研究)②ポスター(内容・見やすさ)③ポスターセッション(プレゼンテーション・質疑応答)の6項目それぞれの到達度を、生徒の自己評価と教師の評価で測った。

「授業案に基づいて指導し、ルーブリックによる評価を行うことで、担当教科での観点別評価をイメージできるようにしました。19年度から新学習指導要領に基づいて『総合探究』の指導と評価に取り組んできたことが、22年度からの各

教科・科目の授業や学習評価に生きていると感じています」(中上先生) 探究活動推進室主任の湯川淑子先生も、手応えを語る。

「『東陵セミナー』を通じて、パフォーマンス評価に関心を持つ先生方も出てきました。『東陵セミナー』の授業案やルーブリックを基に、担当教科の授業案やルーブリックを作成することができれば、教師の負担が軽減されますし、GDに沿った授業を展開する上でも有効だと思っています」

21年度は、静岡県教育委員会の「オンラインワン・ハイスクール事業」の指定校として、静岡県立大学との連携が本格的に始まり、大学教員から専門的な助言を得られるようになった生徒は、「総合探究」への意欲を一層高めている。

教師間の議論を通じて、校内の温度差をなくしたい

22年2月には、静岡県総合教育センターが用意した書式で、22年度1年生の全教科・科目のシラバスを作成した。今後、各教科・科

目の目標と「7の資質・能力」との関連を明示し、GDを反映した評価方法を確立させていく。また、教務課は、観点別評価の結果を評定に総括するための、3観点のABCの数に対応した評定換算表を作成した。各教科・科目がその換算表を基につけた評定の妥当性を検証することも、今後の課題だ。

それらの取り組みを通じて、新教育課程での授業づくりと学習評価に関する目線合わせがより進むのではないかと、湯川先生は語る。

「SDGs探究学習を始めた当初は、その意義を共有することが難しかったですが、探究活動推進室を中心に先生方が粘り強く取り組み、その結果、生徒が熱心に活動し、成長していく中で、少しずつ共通認識が図られていきまし

くりと学習評価についても、それが生徒の成長につながるものだと実感することができれば、その意義が浸透し、温度差は徐々に解消していくと思っています」

今後も、生徒のために何ができるかを教師が徹底的に話し合い、意思疎通を図ることを大切にしたいと、鈴木校長は語る。

「多様な考え方を持っているのがあたり前で、全教師が全く同じ課題意識や解決方法、目的、志向を持つとは考えにくいでしょう。しかし、現状を打開し、よりよい教育をしたいという思いが、仕事の原動力となることは共通であるはずです。生徒や学校の進むべき方向について、回り道でも全教師で議論を重ね、最大公約数を探り、常に生徒を大切に育てる学校を目指していきたいと思っています」

4月以降の課題

- 各教科・科目で育成を目指す資質・能力と、「7の資質・能力」との関連を明確にする
- 観点別評価の結果を評定に総括する方針を踏まえてつけた評価の妥当性を、各教科・科目で検証する

実践事例 3

新教育課程の編成と並行し、自校が育成を目指す資質・能力を明確化・具体化してマスタールーブリックを作成した広島県立神辺旭高校。そのマスタールーブリックを基に、各教科・科目においてルーブリックを作成し、ICTの活用と積極的な互見授業を通して、資質・能力の育成を全校体制で実現することを目指している。

資質・能力の育成を目指し、 ルーブリックに基づいた

指導と評価の改善を

ICT活用と互見授業で推進

広島県立神辺旭高校

学校概要

設立 1980（昭和55）年
形態 全日制／普通科・体育科／共学
生徒数 1学年240人
2021年度入試合格実績（現浪計） 国公立
大は、京都大、島根大、岡山大、広島大、山口大、
香川大などに37人が合格。私立大は、同志社大、
関西大、関西学院大などに延べ202人が合格。

多様な資質・能力の育成を図るため、総単位数を31単位に

普通科と体育科を有し、部活動も盛んな広島県立神辺旭高校は、「文武一道」の伝統を守るため、生徒の主体的な活動の尊重と進路目標の実現の両立を図ることに重点を置いて、新教育課程を編成した。2022年度入学者の1〜3年次の総単位数はそれぞれ31単位

（図1）。20年度以前は33単位、21年度は32単位と、段階的に放課後の時間を増やしてきた。教務主任の梅村嘉雄先生は、次のように説明する。

「希望進路を実現する上で必要な学力を育みつつ、多様な資質・能力を育成するため、生徒が教科以外のことにも目を向けて思考したり、自分自身とじっくり向き合ったり、部活動に打ち込んだりする時間を十分に確保したいと考えました。さらに、教師の働き方改革も念頭に置いています」

時に自校の伝統や特色に立ち返りながら、教科・科目を超えて全教師が根気強く話し合い、新教育課程の編成を行った。

「例えば、普通科の1年次の体育は2単位とする案も出ました。しかし、1年次に体育教育に力を



主幹教諭
徳本孝治
とくもと・こうじ
教職歴31年。同校に赴任して2年目。国語科。
教務主任
梅村嘉雄
うめむら・よしお
教職歴34年。同校に赴任して2年目。理科。
カリマネプロジェクト会議委員
藤田香織
ふじた・かおり
教職歴22年。同校に赴任して14年目。国語科。
カリマネプロジェクト会議委員、探究学習責任者
前田智子
まえだ・ともこ
教職歴3年。同校に赴任して3年目。地理歴史・公民科。
教育情報部主任
西村由
にしむら・ゆう
カリマネプロジェクト会議推進リーダー、教育情報部
上村純
うえむら・じゅん
教職歴7年。同校に赴任して3年目。英語科。



※プロフィールは、2022年3月時点のものです。

図1 広島県立神辺旭高校 2022年度入学者 教育課程

	第1学年		第2学年			第3学年		
	普通科	体育科	普通科		体育科	普通科		体育科
			I類 (理型)	II類 (文型)		I類 (理型)	II類 (文型)	
1	現代の国語	現代の国語	論理国語	論理国語	論理国語	論理国語	論理国語	論理国語
2								
3	言語文化	言語文化	古典探究	古典探究	古典探究	古典探究	古典探究	古典探究
4								
5	歴史総合	歴史総合	地理総合	文学国語	地理総合	地理探究	文学国語	基礎演習 基礎演習
6								
7			公共	家庭基礎	世界史探究 日本史探究	数学III 発展数学	世界史探究 日本史探究	世界史探究 日本史探究
8	数学I	数学I						
9			数学II	数学II	公共	数学B 発展数学	世界史探究 日本史探究	生物基礎
10	数学A	数学A						
11						数学B	政治・経済	生物基礎
12	数学II	保健	数学B			数学C		
13	物理基礎	芸術I	数学C	数学II	公共	応用数学	数学B	数学演習 (数学B)
14			化学基礎					
15	生物基礎	英語 コミュニケーション I	化学	数学B	科学と 人間生活	物理 生物	総合数学	数学演習 (数学B)
16			物理生物	数学C				
17	体育	論理・ 表現I	化学基礎	英語 コミュニケーション II	化学	基礎演習 基礎演習	ソルフェージュ 素描	論理・ 表現II
18			体育					
19	保健	情報I	保健	保健	英語 コミュニケーション III	英語 コミュニケーション III	英語 コミュニケーション III	スポーツI
20			保健	保健				
21	芸術I	スポーツ概論	英語 コミュニケーション II	英語 コミュニケーション II	英語 コミュニケーション III	英語 コミュニケーション III	英語 コミュニケーション III	スポーツII
22		スポーツI						
23	英語 コミュニケーション I	スポーツII	英語 コミュニケーション II	英語 コミュニケーション II	英語 コミュニケーション III	英語 コミュニケーション III	英語 コミュニケーション III	スポーツV
24		スポーツV						
25		スポーツVI	論理・ 表現II	論理・ 表現II	スポーツ 総合演習	スポーツ 総合演習	スポーツ 総合演習	スポーツ 総合演習
26	論理・ 表現I	スポーツ 総合演習	論理・ 表現II	論理・ 表現II	スポーツ 総合演習	スポーツ 総合演習	スポーツ 総合演習	スポーツ 総合演習
27	家庭基礎	専攻 スポーツ	情報I	情報I	専攻 スポーツ	論理・ 表現III	論理・ 表現III	専攻 スポーツ
28			情報I	情報I	専攻 スポーツ	論理・ 表現III	論理・ 表現III	専攻 スポーツ
29	総合的な 探究の 時間	総合的な 探究の 時間	総合的な 探究の 時間	総合的な 探究の 時間	総合的な 探究の 時間	総合的な 探究の 時間	総合的な 探究の 時間	総合的な 探究の 時間
30	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR	LHR
31								

※学校資料を基に編集部で作成。

教育活動の評価のよりどころとなるルーブリックを作成

新教育課程の編成と並行して、

本校が育成を目指す資質・能力の明確化にも取り組んだ。同校では、教育活動全体を通して育成を目指す5つの資質・能力を設定（P.18図2）。それに基づき、それぞれの資質・能力の到達レベルを4段階で示すマスタールーブリックを作成した。カリマネプロジェクト会議推進リーダーの上村純先生

は、マスタールーブリック作成のねらいを次のように述べる。「観点別学習状況の評価の実施に対する不安の声も聞かれました。そのため、マスタールーブリックが、教育活動の評価のよりどころとなることを期待しました」

成して職員会議で提案し、教科ごとに検討して修正を重ねた。「全教師がマスタールーブリックの作成に参加し、議論する中で、本校が育成を目指す資質・能力についての共通認識が図れました。22年度からそれを実際に運用しながら、より本校の実態に合ったものにブラッシュアップしていき

図2 同校が育成を目指す資質・能力

知識・技能	基礎的・基本的な知識の習得だけでなくとどまらず、習得した知識を体系化し、必要な場面で適切に活用できる力
協働的課題解決力	周囲の友人を尊重し、自分の所属する集団を高めるために周囲と協働し、集団を構築していく力
思考力・判断力	物事を批判的に複数の側面から見て、課題解決に必要な手立てを考えることができる力
表現力	他者に自らの考えを、論理的に伝え、分かりやすく表現することができる力
主体性	自らが課題に向かって取り組み、自らの行動を客観的に分析しながら、最後まで諦めず取り組む力

※学校資料を基に編集部で作成。

いと考えています。」(上村先生)

マスタールーブリックを基に、各教科・科目のルーブリックを作成し、新教育課程における指導と評価に活用する方針だと、主幹教諭の徳本孝治先生は説明する。

「当初、各教科・科目のルーブリックをシラバスに掲載する案もありましたが、授業を進める中で見えてくる生徒の実態に合わせてルーブリックを作成すべきだと判断しました。現時点では多く

の教科・科目で最初の単元のルーブリックを作成済みで、22年度に入ったら、他の単元のルーブリックも作成する予定です」

ICTの活用で授業改善を推進し、深い学びの実現を目指す

同校は21年度より、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、パフォーマンス課題の導入も進めてきた。国語では、『源氏物語』の「若紫」を演劇に

するための脚本をグループで考えたり、地理では、インドの脱炭素化に向けて、石炭火力発電以外の発電所の設置計画を考えたりと、各教科・科目で試行錯誤を重ねている。質の高いパフォーマンス課題を作成するために、22年度以降も、教科・科目を超えて校内で事例を持ち寄る考えだ。ICTの活用にも積極的に取り組む同校では、20年度入学生から生徒1

人につき1台の端末を整備するとともに、校内に「教育情報部」を設置した。教育情報部のメンバーには、ICTに苦手意識を持つ教師の目線が抜け落ちないように、あえてICTの知識が少ない教師も起用した。教育情報部の藤田香織先生はこう話す。

「ICTの初心者の方が、アプリの操作や活用方法について、一つひとつ確認していく過程をマニュアル化しました。どの先生にも『ICTを活用してみたい』という気持ちがあったため、マニュアルを使ってもらえて、比較的にスムーズにICTの活用が広がっていききました」

各教科の授業においては、情報の収集やその整理・分析、意見の共有や交換といった協働学習、発表資料の作成など、様々な場面でのICTの活用が進みつつある。

「以前は、生徒の考えを一覧化する場合、プリントを集めてコピーして模造紙に貼りつけるなど、時間と労力が必要でした。そうした場面で授業支援ソフトを使うと、端末上に各生徒の考えが瞬

時に一覧表示され、スピーディーに共有することができます。新教育課程では総単位数を減らしたため、効率的に授業を進行することが求められますが、そうした点でも、ICTを活用する利点は大きいと考えています」(藤田先生)

今後は一層、各教科・科目のICT活用事例を校内で共有していく考えだ。

各教科の学びとの連携を深め、探究学習をさらに発展

「総合的な探究の時間」の充実についての検討も進行中だ。探究担当の西村由先生が中心となり、地域の商工会とのつながりを深め、地元企業と連携した活動を計画している。西村先生は活動のねらいを次のように説明する。

「企業の課題を踏まえて、高校生の視点で商品やサービスを提案するプレゼンテーションやコンペを行うなど、生徒が没頭できる活動を検討しています。生徒の本気を引き出した上で、各教科の学習につながる内容にすることによつ

図3 指導共有授業シート

教科	理科	科目	化学	
指導者	西村 由	指導教室	3年 56組(教室 化学1教室)	
指導日	令和3年12月6日	指導時間	13:25 ~ 14:15	
単元名	学習のまとめ 化学と人間生活			
つけたい力	授業内で協動的に活動して思考するとともに、個々が興味関心や自己実現に向けて、主体的に学習を進めていける力			
指導・活用する資質・能力	協動的課題解決 論理的思考力			
解決すべき課題	これまで理科で学んできたことを踏まえ、日常で起こりうることを例に、協動的に活動し、論理的に思考する。			
見どころ工夫点	知識や理解度、教科・科目へのモチベーションに差が出ている集団に対して、知識構成型ジグソー法で協動的に活動させ、個に応じた学びの刺激を提供したい。			
課題に対する評価指標 (5が上位、必要に応じて2-4を定める)	5 エキスパート課題を理解し、ジグソー活動で理解を深め、論理的に答えを導くために思考し、グループで議論できた。その後、興味関心や自己実現に向けて、主体的に学習した。 3 エキスパート課題を理解し、ジグソー活動で理解を深め、論理的に答えを導くために思考し、グループで議論できた。 1 エキスパート課題を理解し、ジグソー活動に参加できた。			
指導過程	時間	学習活動	指導 指導上の留意点	
	5	導入	課題の説明 自身の課題に書かなくても書かなくても取り替える。	
	★35	展開	エキスパート活動 個人で、書かなくても書かなくても取り替える。 グループで内容を確認させる。 ジグソー活動 各教科を他のメンバーに説明させる。 得られた知識をもとに、グループの課題の答えを議論させる。ホワイトボードに記入させる。	等人数の近いグループへ実施する。
		まとめ	10	協同グループの考えを共有し、様々な意見のプロセスがあることを確認させる。個に応じた自主課題に取り組みを促す。 Classroomで確認して、自主課題を提出させる。

※学校資料をそのまま掲載。

て、活動をさらに発展させていきたいと思っています」

思考力・判断力・表現力の育成における「総合的な探究の時間」と各教科・科目の連携を推進する前田智子先生は、次のように語る。

「各教科・科目のシラバスに沿って、『総合的な探究の時間』と教科・科目の学びがひもづけられるのが理想です。22年度は、探究学習の活動計画を踏まえて、『この単元を学ぶ際に、探究学習との関連を生徒に考えさせてほしい』といっ

た声かけを、各教科・科目担当の教師にしていこうと考えています」(前田先生)

互見授業を活性化し、さらなる改革の推進を図る

すべての教師が、新教育課程や自校が育成を目指す資質・能力について深く理解・納得をして、指導と評価の改善に向かえるようにしていくことが、今後の課題の1つだ。同校では、教師同士で授業

4月以降の課題

探究学習と教科学習を関連つけた教育活動の推進
互見授業の定着により、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指すことへの共通認識や、指導・評価手法の共有を図る

を見合う互見授業をさらに活性化すべく、教務部が中心となって体制を整え、授業者が授業のポイントを伝えるツールとして、「指導共有授業シート」を導入した(図3)。

同シートには、授業で指導・活用する資質・能力や解決すべき課題、見どころ、ルーブリックなどを記入し、見学者と共有する。

「ICTにしても、パフォーマンス課題にしても、目的や方法を口頭で伝えるだけでは不十分で、授業での生徒の表情や反応を見て、『これは意味があるな』『この方法はいいな』と感ずることで初めて実践は広がるものだと思います」(藤田先生)

互見授業の活性化には、教科横断的な学習の充実も期待する。

「最初は授業の手法の共有から

でもよいと考えています。大事なのは、教師同士で対話をする機会を増やすことであり、そうする中で、次第に各教科・科目のテーマや内容の関連づけが進んで、教科横断的な学習の実践が増えていくと思っています」(徳本先生)

新教育課程を見据えて、様々な面から指導や評価の改善を試みる中で、授業の様子や生徒の姿に変化が見られるようになった。藤木史朗校長は次のように述べる。

「私が本校に赴任した4年前とは、授業は様変わりしました。以前は、教師の解説と板書による授業が中心でしたが、今ではICTを活用して、生徒自身が主体的に考えて学ぶ姿が見られるようになりました。今後の授業改善のさらなる進展を期待しています」

実践事例 1、3の学校の代表者による座談会

新学習指導要領下で目指すべき授業と学習評価を 実現するために必要な校内体制とは

実践事例1、3では、3校の新教育課程やグランドデザイン（以下、GD）、スクール・ポリシー（以下、SP）について、その編成・策定から校内での周知・浸透に至るまでのプロセスを振り返った。ここでは、3校の代表者が集まり、新学習指導要領の実施初年度である2022年度の授業と観点別学習状況の評価（以下、観点別評価）の展望を語り合い、新学習指導要領の理念や自校の教育目標を実現するために必要な校内体制について考えた。

協働的な学びで、知識の習得
と思考力の育成を同時に図る

河野 本特集の企画を担当する、VIEWnext編集部の河野です。各校とも、自校の課題や新学習指導要領を踏まえて新教育課程を編成し、GDやSPを策定されています。その実行や実現に向けて、2022年度はどのような授業をしていこうとお考えですか。

徳本 これまでの授業は、生徒が知識を習得し、それをそのままアウトプットできるようにする指導に力を入れる傾向があったと思

います。しかしこれからは、例えば漢字の習得でも、生徒がその成り立ちにまで考えを巡らせることができるように授業を設計すべきであり、そのために必要なのが、「主体的・対話的で深い学び」だと考えています。「なぜ、そうなるのか」を自ら考え、時に他者と対話しながら理解しようとする、また、考え、理解したことを論理的に、相手に分かりやすく説明できるようにすることを目指し、絶えず生徒に「なぜ」と問い続け、物事の本質を追究させたいと思っています。

中上 私が担当する化学において

も、協働的な学びが重要になると捉え、例えば授業では、教師の問いかけに対して相談したり、既習事項を自分の言葉で説明し合ったりするような、生徒同士が語り合う時間を頻繁に設けています。教師の説明を聞くだけでは、生徒は自分の理解が正しいか、確認することができません。他者に説明することで、自分の理解度を客観的に把握するとともに、新たな気づきを得るなどして、理解も深めます。

また、教科書に書かれているような確認実験に加え、探究的な実験も実施しています。それは、生

千葉県立千葉北高校
進路指導主事
和泉雄介
プロフィールは、P.8

静岡県立静岡東高校
教務主任
なかうえ
中上明仁
プロフィールは、P.12



かんべあさひ
広島県立神辺旭高校
主幹教諭
とくもと
徳本孝治
プロフィールは、P.16

VIEW next 編集部
高校領域担当責任者
こうの
河野仙一

不断の改善で推進する 生徒主体の新教育課程

徒に仮説と計画を立てさせ、結果の考察も行わせる、学習内容と日常生活とのつながりを実感できるような実験です。そうした実験にグループで取り組むことで、思考力が磨かれると同時に、知識・技能が蓄積されていきます。時間の制約もありますが、今後、そのような探究的な実験を増やしたいと考えています。

和泉 私は、担当する英語の授業でSDGsに関する素材文を扱った際、大学教員を招き、生徒に向けた講義や生徒の発表への講評などを行ってもらったことがあります。専門家から直接指導を受けるのと、生徒は自信や達成感を得ます。本物に触れたり、仲間や周りの大人に認めてもらったりすることで、学習意欲は高まり、知識は一層定着して、思考が深まります。そのため、今後は大学や地域との連携がより重要になると考えています。

河野 知識・技能の習得と、思考力・判断力・表現力等の育成を両立させるということですね。

徳本 大学入試で思考力や表現力を評価すると言っても、試験に参

考書等を持ち込めない以上、一定以上の知識量が求められていると言えます。また、知識がなければ思考・判断も十分にできません。そうした意味で、知識・技能の習得の重要性はこれまでと変わらな いでしょう。一方で、思考力や判断力、表現力がなければ太刀打ちできない入試問題が増えているのも事実です。大学入試においても、知識の蓄積に加えて、論理的に思考し、表現する力を伸ばすことも大切であることを、どの教師も受け入れるべき時なのだと思います。

育成を目指す資質・能力を
意識した振り返りが大切

河野 資質・能力を育成する授業を実践する中で、どのような学習評価を目指すべきでしょうか。

和泉 学習評価は、単に評定をつけるためだけでなく、生徒が自分の立ち位置を知り、自ら成長していくきっかけをつかむために行うべきです。本校では、「千葉北GD」(P.10参照)の策定時に併せて作成したルーブリックに、A

とCに加え、S評価を盛り込みました。例えば、文化祭でクラスの出し物を力を合わせて作り上げた経験を、他の学校行事に応用するなど、教師の想定以上の取り組みを「S評価」と捉えます。教科学習は、3段階評価ですが、A評価の中でも特に優れた取り組みについて、功績を認め、たたえるような仕組みをつくることで、自己肯定感や学習意欲を高め、さらなる成長を促したいと考えています。

中上 生徒の成長につながる学習評価であるべきという視点に同感です。私は、毎回の実験レポートで、実験結果の考察に加えて、「疑問に思ったこと」「実生活との関連」についての自分の考えを書かせています。新たな疑問がないか、さらに、実生活との関連はどのようなものかを考えさせることで、生徒をより主体的に課題に向き合わせ、知識を活用する思考力を育成したいという意図があります。

和泉 どの教師も、SPの策定などで22年度を迎えるための議論を経て、生徒に身につけてほしい資質・能力のイメージを持っている

と思います。その資質・能力を、生徒がよく目にする黒板やワークシートなどに明示し、生徒が絶えず評価の観点を意識できるようにするのはどうでしょうか。これまでの授業や教材を大きく変えなくても、少しの工夫で授業や学習評価の質が向上すると思います。

徳本 私は、担当する国語の授業で、「定義が説明できること」「主題を一言で言えること」「対比できること」「根拠を述べられること」「具体と抽象を使った例示ができること」の5つの点を重視しています。そして、定期考査では、必ずそれらの点を評価する問題を出しています。知識がなければ定義の説明はできませんし、対比や例示ができていないかを見ることで、思考力や表現力を測ることもできます。学習評価で求められる3観点の評価をする上でも効果的だと考えています。

教師が自由に意見を言える
風通しのよい環境を

河野 授業等が始まり、「教科書

を終わらせないといけない」といった問題に直面すると、新学習指導要領の理念や自校の教育目標から離れた授業になってしまつのではないかといった声を現場の先生方から伺います。そうした状況にしないためには、どのようなことに留意すべきでしょうか。

徳本 大切な点が2つあると思います。1つは、「大変だったけれども、やってよかった」と実感できるよう、先生方に実際に取り組んでもらうことです。もう1つは、教科会や主任会で先生方が発言しやすい環境をつくり、各自の実践やその成果を語り合うことです。

本校ではこの2年間、教科間の互見授業に力を入れてきました。授業内容や使用教材だけでなく、その授業でどのような資質・能力を育成するのか、そのための工夫は何かといったことに焦点をあてて指導案を作成し、授業を見合いました（P.19参照）。授業ノウハウの共有に加え、育成を目指す資質・能力についても教師間で目線合わせができ、活発に意見を述べ合う雰囲気醸成されたと思います。

和泉 私も、先生方一人ひとりが当事者意識を持ち、学校の方向性に対する目線を合わせるが大切だと思います。そのために、「総合的な探究の時間」（以下、「総合探究」）が重要な役割を果たすと考えています。「総合探究」は、「学びに向かう力、人間性等」を含め、教科学習よりも幅広い資質・能力を育成しやすい場です。本校では総探推進委員会を中心に、3年間を見通し、育てたい生徒像と学校教育目標をリンクさせて、実施内容を抜本的に見直しました。その過程で、本校が目指すべき方向性について教師間で意見交換をする機会が増え、それがSP策定における活発な議論にもつながったと感じています。全校体制で「総合探究」に取り組めば、自校の教育目標を共有する基盤をつくりやすいことを実感しました。

中上 本校では8年ほど前、約20人の若手教師による「アクティブラーニング（以下、AL）推進委員会」を立ち上げて授業研究を行ってきました。委員は学期に1回以上、ALの視点を取り入れた

授業を実践し、その他の教師は少なくとも年3回、授業を参観し、授業者に気づいたことをフィードバックしました。そうした取り組みを通して、教科の枠を超えて授業ノウハウを共有し、教師間で意見を述べ合う文化が育まれました。コロナ禍の影響もあり、委員会の活動は休止していますが、今も先生方は自主的に授業を見合っている、授業改善に取り組んでいます。

和泉 客観的な指標に基づいて授業改善に取り組める組織体制も大切だと思います。「こういう生徒が多い」などと、「印象」で議論するのではなく、データに基づいて

て、そうした生徒の増減やその原因を分析し、授業の何を改善すべきかを判断する。例えば、ルーブリックや外部指標を基に、「この項目で3ポイント以上変化があったものは、要改善項目」と決めれば、おのずと授業改善が進みます。意見を述べやすい雰囲気とエビデンスベースで判断する文化が、課題が表出した際に柔軟に変化し、対応していける教師集団をつくるのではないのでしょうか。

河野 新学習指導要領の実施に向けて、全国の先生方の背中を押すような示唆に富んだお話を、ありがとうございました。

今年度の本誌の特集では、 新学習指導要領に基づく教育実践を 定期的に取り上げていきます。

今号に登場した3校に引き続き協力いただき、8月号では3校の「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業実践を、2月号では3校の学習評価の実践を取り上げる予定です。「不断の改善で生徒主体の新教育課程を推進する」軌跡を、各校の実践にお役立てください。

For School Section

学校改革や組織運営に役立つ
事例や情報を、
先生方の思いを乗せてお届けする

P.24

指導変革の軌跡

その時、教師は何を考えたか、どう動いたか。
学校改革の過程を当事者の言葉で追う

お勧めの分掌 ▶

管理職

教務担当

進路担当

神奈川県・私立関東学院中学校高校

教育ビジョンを軸とした学校改革

自校の特色の可視化に向け、「STREAM教育」の名の下、
既存の教育活動を整理するとともに、活動の改善も推進

P.28

新課程レポート

現場が直面する課題や疑問の解決に
つながる事例や解説記事を提供

お勧めの分掌 ▶

管理職

教務担当

大阪府立鳳高校

観点別学習状況の評価の実践と軌道修正

2年間の試行を通して明らかになった
観点別評価の実践ポイントと可能性

P.32



学年団を訪ねて

学年経営に悩む先生方に！
チームづくりの秘訣を掘り下げる

お勧めの分掌 ▶

学年団

担任

青森県立大間高校 2学年団

教職3年目の若き学年主任を中心に、
学校が一体となって生徒の進路実現を支援

P.36



いざという時の対応は平時の準備で決まる。学校危機管理の専門家が解説

著作権とプライバシーの侵害

神奈川県・私立関東学院中学校高校

教育ビジョンを軸とした学校改革

自校の特色の可視化に向け、「STREAM教育」の名の下、既存の教育活動を整理するとともに、活動の改善も推進



学校概要

- ◎設立 1919 (大正8)年
- ◎形態 全日制/普通科/共学
- ◎生徒数 1学年約250人
- ◎2021年度入試合格実績(現役のみ) 国公立大は、東京外国語大、東京工業大、東京大、東京都立大、神奈川県立保健福祉大、横浜市立大などに20人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、東京理科大、早稲田大などに延べ721人が合格。

変革の背景

「古くて新しい」取り組みを
教育のビジョンとして可視化

2021年夏、神奈川県・私立関東学院中学校高校は、新たな教育ビジョン「OLIVE STREAM」を打ち出した。「OLIVE」は、聖書の中で平和の象徴とされる植物で、同校の校章のモチーフであり、「STREAM」は、STREAM教育(*)に、同校の建学の精神であるキリスト教(宗教・Religion)の「R」を加え、「E」は英語(English)を前面に出したものだ。そのビジョンの下、自然科学や工学、数学に関する幅広い知識、

グローバル人材に必要な語学力や教養、キリスト教精神に基づいた宗教観など、混迷の時代を生き抜く資質・能力を育むという教育方針を示した(図)。

同年4月に赴任した森田祐二校長は、新たなビジョンを打ち出した意図をこう語る。

「着任して課題に感じたのは、発信力の弱さでした。本校が伝統的に行ってきた教育活動の多くが、これからの社会で求められる資質・能力を育成する活動でしたが、それらは外部にほとんどアピールされていませんでした。まずは本校の『古くて新しい』取り組みを整理し、外部に打ち出そうと考えました」

例えば、「STREAM」の「A」にあたるリベラルアーツ教育として、放課後に希望

者が無料で受講できる、中国語・韓国語、茶道・華道などの教養講座を長年行っている。いずれも専任講師による本格的なレッスンで、茶道・華道は免状も取得できる。また、1952年創部のマーチングバンド部を始めとする音楽系の部活動が盛んで、生徒のおよそ6人に1人が音楽系の部に所属している。

建学の精神であるキリスト教主義に基づく宗教教育にも力を入れてきた。週2回の礼拝や、週1回の宗教の授業など、国際理解に欠かせない宗教観を育んでいる。

「宗教に関する教養がないビジネスマンは、国際社会で通用しないと言われています。また、国内の外国人労働者数は増加傾向にあります。宗教の知識・理解は、多様性を受け入

* STEAMは、Science、Technology、Engineering、Art、Mathematicsの頭文字で、科学、技術、工学、芸術を始めとする文化的教養、数学に重点を置いた教育、人材育成のこと。

図 教育ビジョン「OLIVE STREAM」

Science

- ☆5つの理科実験室
- ☆実験重視のカリキュラム
- ☆ハワイ島理科研修
- ☆関東学院大学との連携
- 6年一貫のサイエンスリテラシー教育

Technology & Engineering

- ☆技術の授業
- ものづくりとプログラミング
- ☆「協働」する力を養うオリジナル教材
- ☆「手を動かす」こととICTの連携

Religion

- ☆宗教 キリスト教（プロテスタント）、校訓「人になれ 奉仕せよ」
- ☆礼拝
- ☆キリスト教に基づく学校行事
- 真の国際人として宗教観を身につける

English

- ☆4段階の英語教育 オンライン英会話、ベルリッツメソッド、英会話（チーム・ティーチング）、英語授業改革（コーチングメソッド）、海外研修、検定試験
- 大学受験でも、海外でも通用する英語力を身につける

Art

- ☆リベラルアーツ 茶道・華道、中国語・韓国語（課外授業）
- ☆芸術 陶芸室完備
- ☆35の部活動 音楽系部活動が盛ん

Mathematics

- ☆数学 基礎の徹底と演習、先取りは最小限、数学嫌いをつくらない、こまめな小テストとケア
- 大学受験の先まで見据えた数学的思考力の育成

☆は既存の取り組み、•は改革してきた取り組み。
※学校資料を基に編集部で作成。

一人ひとりを大切にする対面重視の教育活動とICTの活用
2学期制・週6日制（年間授業数35週＋定期考査・学校行事）、豊富な授業時間とゆとりのあるカリキュラム

自分らしい進路決定・目標達成のための力、自分の力を他者とともに用いるサーバントリーダーの育成

変革の一手

英会話の授業やネイティブとのオンラインレッスンで英語4技能を育む

新たなビジョンでは、ここ数年の社会の変

れられる社会人になるための必須の教養と言えます。6年間、キリスト教をベースに系統立てて宗教を学ぶ経験は、生徒にとって大きな財産になると思っています」（森田校長）

化を見据えながら改善してきた教育活動を、改めて学校全体の取り組みの中に位置づけ、その価値を再認識するといったねらいもあった。進路進学指導委員長の武田剛昌^{よしまさ}先生は、次のように説明する。

「本校の学習指導・進路指導は、学年団や担任の裁量に任されている部分が多いことから、教師が新しいことにチャレンジしやすい半面、よい取り組みが継承されにくいことが課題でした。また、伝統校として安定した生徒募集が行えてきたためか、学校全体とし

ては、社会の変化に応じた動きが鈍く、このままでは遅かれ早かれ、受験者数の減少に見舞われるのではないかとという危機感がありました。そうした課題意識や危機感を全教師で共有し、同じベクトルで改革に取り組む土壌をつくるためにも、新しいビジョンが必要でした」

新しいことにチャレンジしやすい同校の環境を生かし、15年度から、英語教育においては「話す・聞く」力の育成を強化している。中学1年生～高校2年生では、6単位の英語の授業に加えて、英会話学校の講師による英会話の授業を2単位、正課に組み入れている。さらに、高校1年生では週1回、始業前の30分間、ネイティブ・スピーカーとの1対1のオンライン英会話も実施（他学年は希望者制で実施）。英語4技能の育成を図る指導に転換した。

「スピーキングとリスニングの力は英会話の授業でも伸ばせるようになったため、英語のほかの科目では、文法事項の習得や長文読解、英作文などにもじっくり取り組ませています。また、生徒が英語の資格・検定試験に積極的に挑戦するようになり、それらの結果を活用した学校推薦型選抜や総合型選抜の合格者が増えています」（森田校長）

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

学年団

担任

高大連携を通じて、探究学習の質の向上と生徒の進路意識の醸成を図る

理数教育の充実も図っている。同校は5つの理科実験室を完備しており、中学1年次は理科の実験を週1回必ず行うなど、伝統的に理数教育に力を入れてきた。

近年は、充実した設備と系列校に大学がある強みを生かした取り組みを行っている。生物では、高校2年次の前期において1か月間、グループによる探究学習を実施。系列校の関東学院大学理工学部の大学教員3〜4人をアドバイザーとして招き、探究する課題の設定



写真1 探究学習の成果発表会には、大学教員が参加。大学教員からの専門的な指摘が、生徒の探究心をかき立てているという。

や実験などに対するアドバイスをもらいながら探究を進め、最後に、大学教員も同席する成果発表会を行う(写真1・2)。

「生徒が設定する探究の課題は、高校生ならではの柔軟な発想によるものが多く、興味深い探究になることが珍しくありません。そのため、理論上はありえないことを生徒が発言しても、大学の先生方は生徒を頭ごなしに否定することはなく、温かく丁寧に助言してくれます。多くの生徒がもっと研究を深めたという感想を述べており、大学と連携した探究学習によって、大学の学びへの期待感が高まっていることも感じます」(武田先生)



写真2 生物の探究学習の内容は、模造紙にまとめて発表した。写真は、ネベンテスアラータという食虫植物の酵素が、エビやジャガイモ、自身の組織などを分解できるかどうかを実験・考察した研究。



校長

森田祐二 もりた・ゆうじ

教職歴35年。同校に赴任して1年目。

進路進学指導委員長

武田剛昌 たけだ・よしまさ

教職歴12年。同校に赴任して9年目。理科(生物)。

生物の探究学習は、武田先生と大学教員との個人的なつながりから始まった取り組みだが、それによって大学と同校との関係が深まり、中学生対象の放課後講座の中に、大学教員による数学講座を設けることにもなった。物理でも、大学と連携する活動が検討されており、教科学習における高大連携が学校全体の取り組みに発展しつつある。

進路指導での高大連携では、既存の取り組みの刷新を進めている。これまでは、高校2年生が関東学院大学の研究室を訪問し、講義を受けたり、模擬実験に取り組んだりする「知のフロンティア」を行ってきた。それには生徒の進路意識を高めるねらいがあったが、単発の取り組みのためか、進路意識が十分に高まっていなかった。同校の教師は感じていた。そこで、22年度からは、他の系列校と合同開催とし、開講数を文理合わせて30講座以上に拡充する予定だ。加えて、すべての講座でSDGsとの関連性を示すとともに、ワーク

※プロフィールは、2022年3月時点のものです。

シヨップを取り入れるなど、生徒の学習意欲を高め、主体的に参加できる内容に改める。

『知のフロンティア』は、これまで他の系列校と別日程で行ってきましたが、2校による合同実施にすることで、大学の負担を軽減しつつ、講座数の大幅な増加が実現しました。他校生と一緒に取り組むワークショップや実験が、本校の生徒にとっても、よい刺激になるのではないかと期待しています」（武田先生）

医師の卒業生との懇親会を通じて、早期から医学科進学への意識を高める

医学科志望者に対する支援体制も整備を進めている。同校では毎年、卒業生である大学生・社会人と生徒との懇談会を行っているが、18年度からは、医学科志望者を対象とした医師の卒業生との懇談会も実施。大学での学びについての話を聞いたり、受験勉強や面接試験のアドバイスを受けたりするほか、入試で行われる集団討論の練習も行う。

当初は高校3年生のみを対象とされていたが、現在は高校1・2年生も加えて、医学科志望者を早期から支援している。低学年時から意識づけを図ったことが功を奏し、21年度は2人の生徒が現役で医学科に合格した。

「これまで、医学科志望の生徒への支援は、

教師が個別に対応してきましたが、1年次から卒業生との対話や入試に向けた集団討論の練習に参加することで、早期から医学科合格を目指す学習を積み上げられるようになりました。そして、実際に医学科に合格した先輩がロールモデルとなり、最後まで志望を貫く生徒が増え、21年度の実績につながったのだと思います」（武田先生）

一連の実績を踏まえて、21年度からは医学科志望者対象の「医進プログラム」をスタートさせた。医師による講演会や予備校講師による講習などを年間指導計画に組み込み、中学生や保護者にも参加を促した。今後は、医学科進学の支援に力を入れていることを外部に発信していく考えだ。

変革の成果・展望

点と点をつなげて1つの流れにし、取り組みの効果を相乗的に高めたい

一連の改革の結果、21年度大学入試では、東京大学や東京工業大学を含む国公立大学の現役合格者数が20人と、ここ十数年間で最多となる実績を出した。生徒募集では、22年度中学校入試の受験者数が、前年比500人以上も増加した。

「本校の教育を『STREAM』という形で整理し、分かりやすく発信したことで、中学生や保護者に本校の特色が理解され、中学校入試の受験者数の増加につながったのだと捉えています。改めて、外部への発信の重要性を感じました」（森田校長）

教師が本校の教育のあり方について話し合う場面も増えた。「STREAM教育」というビジョンがあることで、目線を合わせて議論する土壌が生まれつつある。

今後の課題は、教師の指導力の向上だ。教師同士が切磋琢磨し合う環境を整えるため、授業研究や模擬試験の分析などを組織的に進めていく。加えて、教育体制の体系化も課題だと、森田校長は語る。

『STREAM教育』により、本校の教育を整理することはできましたが、一つひとつの取り組みは点にとどまっておらず、それらがどのように結びついているのか、結びつけられるのかというところまでは、至っていません。個々の教育活動を学校の年間計画にきちんと位置づけて継続性を担保するとともに、それぞれがどのような目標につながるのかを明確にすることが必要だと思っています。点と点をつなげ、1つの『STREAM（流れ）』にしていくことで相乗効果を高め、教育力の底上げを図っていきたくと考えています」

新学習指導要領がスタートした2022年度、学校現場には資質・能力を育成するための指導と評価を積み重ねながら、より自校に合った形へと軌道修正していくことが求められる。現場が直面する課題や疑問を解決し、よりよい計画・実践につながる情報を提供する。

— 疑問や課題を解決！実践につながる！ —

新課程レポート

ベネッセ教育情報センター

テーマ

観点別学習状況の評価の 実践と軌道修正

実践レポート

新課程の指導と評価の充実に向けて、
今年度も様々な事例や情報を発信

22年度からの観点別学習状況の評価（以下、観点別評価）の実施に向けて、これまで本コーナーでは、主に「3観点をどのように評価すればよいか」「観点別評価と評定をどのようにひもづければよいか」といった点を、先進事例を基に解説してきた。3観点的評価のうち、「知識・技能」「思考・判断・表現」については、校内

テストで観点別に出題・採点をすること、「主体的に学習に取り組む態度」については、自己評価を活用することで評価を行う予定の学校が多かった。評定換算については、教育委員会の規定や各校で育成したい資質・能力を踏まえて、3観点到重みづけを「するパターン」と「しないパターン」に大別できる。各校は、今後もある生徒の実態を見ながら、指導と評価の軌道修正が求められる。新学習指導要領での指導と評価の充実に向けて、今年度も本コーナーでは、先進事例を紹介していく。

2年間の試行を通して明らかになった 観点別評価の実践ポイントと可能性 大阪府立鳳高校

2020年度から観点別評価の試行に取り組んできた大阪府立鳳高校。大阪府立高校では、観点別評価を評定に総括する際、3観点的重みを均等に扱うため、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の評価の研究が重要なテーマとなった。2年間の試行から、各校が今後直面するであろう課題と解決の方策を考える。

設立 1922(大正11)年
形態 全日制/普通科/共学
生徒数 1学年約280人
2021年度入試合格実績(現役のみ)
国公立大は、大阪教育大、神戸大、和歌山大、大阪市立大、大阪府立大などに53人が合格。私立大は、同志社大、立命館大、関西大、関西学院大などに延べ920人が合格。

思考・判断・表現の評価

生徒の成果物を見ながら、
ルーブリックを練り直す

「思考・判断・表現」の評価において、同校の教師たちが直面し

た課題は、パフォーマンス課題のルーブリックと、生徒の成果物の

ミスマッチだった。地学担当の折橋将司先生は、21年度1学期のパフォーマンス課題での生徒の成果物をルーブリックと照らし合わせる中で、B評価には達していないけれども、A評価の基準の一部を

図1 「思考・判断・表現」を測るルーブリックの改善

A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：Bに達しない

① 地学（「地球の大きさを測定しよう」）

◎当初の評価基準

A	B	C
<ul style="list-style-type: none"> エラトステネスの方法とGPSの値を用いて地球の大きさを測定し、より正確に測定する方法を的確に考えることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> エラトステネスの方法とGPSの値を用いて地球の大きさを測定できる。 	<ul style="list-style-type: none"> Bの基準を満たしていない。

◎新しく作成した評価基準

A	B	C
<ul style="list-style-type: none"> エラトステネスの方法とGPSの値を用いて地球の大きさを測定し、より正確に測定する方法を的確に考えることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> エラトステネスの方法とGPSの値を用いて地球の大きさを測定し、より正確に測定する方法を考えるとできている。 	<ul style="list-style-type: none"> Bの基準を満たしていない。

改定前のルーブリックでは、B評価となった生徒の中に「地球の大きさを測定できる」は満たしていないが、「より正確に測定する方法を考えるとできている」者が見られ、評価の連続性に欠けていた。そこで、改定後のルーブリックでは、B基準として「考えることができている」、A基準として「的確に考えることができている」とし、考えの妥当性の有無で評価の連続性を持たせた。

※学校資料を基に編集部で作成。

満たしているといった状況が発生していることに気がついた。「ルーブリックのA評価とB評価で、異なる点を見る記述語になつていたので。そこで、集めた成果物を見ながら、同僚とともに改めてルーブリックを作成し直しました(図1)」

国語科の岩尾淳未先生も、当初のルーブリックを作成し直した。

「生徒の解答には、教師の想定を超えたものもあり、当初のルーブリックでは評価は困難だと感じました。そこで、同じ学年を担当する国語科の教師が成果物をざっと読み、互いの気づきなどを持ち寄って、ルーブリックの練り直しを行った上で、各教師が担当クラスの結果物を詳細に評価する流れにしました」

地歴・公民科の藤田真緒先生は、生徒の納得度を高めるためにルーブリックの到達基準を細かく設定したことで、評価がしにくくなつてしまったことがあるという。

「各段階で満たすべき基準を細かく挙げて評価に臨んだところ、高く評価したい成果物が低い評価となつてしまったことがあります。細かくポイントを設定しすぎるよりも、大きなポイントを提示した方が本来の評価の目的を達成できると思いました」

もちろん、ルーブリックの記述語が大まかなものだ、教師間で評価のズレが生まれかねない。ルーブリックの記述語の具体性は、実践と軌道修正を重ねることをつかむのが一番の近道だと、折

橋先生は考える。

「本校は、20年度から観点別評価の試行に取り組んでいます。21年度は20年度の試行を生かしたことで、ルーブリックの精度も上がり、評価の負担も大きく軽減しました。私たちが経験を積み、生徒の成果物を見通すことができるようになったからだと思います」

「生徒の成果物を基にルーブリックを見直す工程を2、3回経験すると、ほかの単元でもブレの少ないルーブリックを作成できるようになりませんが、やはり最初は修正が発生します。教師が評価を負担に感じないように、パフォーマンス課題と定期考査の時期をずらすなど、年間の評価計画を工夫することが必要です」(岩尾先生)

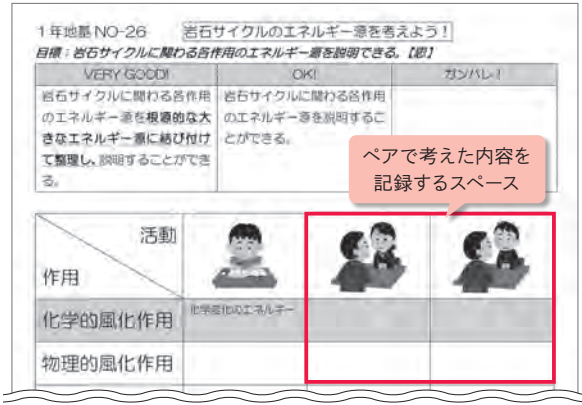
主体的に学習に取り組む態度の評価

2つの観点の評価を同時に見取ることができるパフォーマンス課題をつくる

20年度の同校では、「主体的に学習に取り組む態度」の観点につ

いては、生徒が作成する「振り返りシート」を基に評価した。だが、

図2 2つの観点で学力を測るワークシート



※学校資料をそのまま掲載。

「評価に差が生まれにくい」「授業の最後の10分間で作成したシートを基に評価してよいのか」といった声が上がった。

『主体的に学習に取り組む態度』は、粘り強さと学びの自己調整という2つの側面で評価されるものですから、『振り返りシート』の記述だけで評価するのは困難だと考えました。そこで21年度は、単元の中に、他者の意見を踏まえて自分の意見を練り直すグループワークや、単元全体を通して身につけた力を発揮させるパフォーマンス

ンス課題を取り入れることで、『思考・判断・表現』と『主体的に学習に取り組む態度』の2つの観点を、1つの成果物を基に評価することにしました（折橋先生）

例えば、地学のパフォーマンス課題は「思考・判断・表現」を評価するために20年度に作成したもので、生徒が1人で取り組むものだった。しかし21年度は、ペアで考える過程を2回組み込み、「思考・判断・表現」とともに粘り強さや自己調整する力を測るように工夫した（図2）。

「思考・判断・表現」を測るパフォーマンス課題で「主体的に学習に取り組む態度」も見取る同校の取り組みは、22年度も続けて行われる予定だ。藤田先生は、「生徒との評価基準の共有」がますます重要になると考えている。

「生徒の中には、『主体的に学習に取り組む態度』の評価を『前向きなことをたくさん書けばA』『文字数が少ないとC』と、大ざっぱにしか捉えられていない者もいます。評価が終わったワークシートを返却する際には、B評価とA評

価の記述語を見せながら、『今後のことを具体的に書けている』『押さえてほしいキーワードが入っている』などの違いを確認しながら、B評価の生徒には、『ここをもっと詳しく書けばAだよ』などと気づきを促すことが重要だと思っています。実際、意欲のある生徒は、私の指摘を踏まえて自発的にワークシートを修正しています」

「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の2つの観点の評価を担うという点でも、パフォーマンス課題の重要性はますます高くなるが、折橋先生は、パフォーマンス課題への取り組みをよりよいものとするためにも、授業で出題する小テストを活用した形成的評価を充実させている。

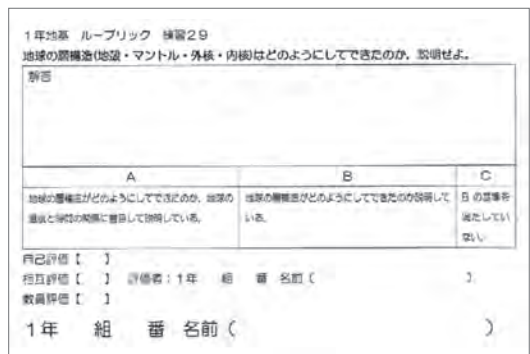
「15分程度で取り組める小さなパフォーマンス課題（図3）をルーブリックとともに生徒に与えます。解答作成と自己評価に必要な時間は5分程度で、その後、席が近くの生徒同士で相互に『なぜその成果物がその評価なのか』を伝え合う時間を取っています」

形成的評価として実施している

ため、生徒の相互評価で終わることもよくあるが、回収した成果物に目を通すことで、より大きな課題を与えた時に生徒がどのように答えるのが予測できるようになり、ルーブリックの練り直しに役立つという。

「生徒も、パフォーマンス課題ではどんな成果物がA評価になるか、見通すことができるようです。こうした小テストなどを材料に、パフォーマンス課題や定期考査の機会に教科団で生徒の状況を確認し、ルーブリックを軌道修正していきたいと思います」（折橋先生）

図3 形成的評価のための小テスト



※学校資料をそのまま掲載。

22年度の展望と課題

学びの目的と評価の根拠を 生徒にしつかりと伝えていく

田中肇校長は、異なる評価手法を有機的に連係させることの重要性を指摘する。

『振り返りシート』は単体の評価材料とするよりも、ほかの評価材料と組み合わせることで、その真価を発揮するのだと私は考えています。例えば、パフォーマンス課題の評価に際して、『振り返りシート』も併せて見ること、教師は『生徒がパフォーマンス課題に取り組み中で、どのような思考の変遷を経て、ここまでの思索

にたどり着けたのか』についても見取ることができ、結果として、『思考・判断・表現』だけでなく、『主体的に学習に取り組む態度』も評価できるようになると思います」

端村誠教頭は、今後は評価の根拠を説明する力が、教師にますます求められると話す。

『思考・判断・表現』『主体的



教頭 端村 誠
はしむら・まこと
教職歴26年。同校に赴任して4年目。



校長 田中 肇
たなか・はじめ
教職歴34年。同校に赴任して2年目。



生活指導部 藤田真緒
ふじた・まお
教職歴2年。同校に赴任して2年目。地歴・公民科。



自治会部 岩尾淳末
いわお・あつみ
教職歴2年。同校に赴任して2年目。国語科。



教務主任 折橋将司
おりはら・まさし
教職歴5年。同校に赴任して5年目。理科。

※プロフィールは、2022年3月時点のものです。

に学習に取り組む態度』の評価の根拠を、単元の目標に準拠しながら説明することで、生徒の授業理解が一層深まり、評価への納得度も高まります。同様に、『知識・技能』においても、それが何を追究するために必要な知識なのか、授業で説明していくことも重要になるでしょう」

生徒への授業アンケートの結果から、パフォーマンス課題やそれを軸にした授業の満足度が高いことも明らかになった。また、一部の教科で定期考査の結果を分析したところ、パフォーマンス課題の中で扱った知識・技能を測る問題の正答率は圧倒的に高かったことも分かっている。

「パフォーマンス課題に意欲的に取り組むことで、知識・技能も定着します。観点別評価に伴う授業改善は、大学入試で求められる学力も保障するものであるとともに、社会に出た後も必要とされる力の習得に資するものであると感じています」(田中校長)

—学び続ける生徒の育成に向けて— 新課程における教育実践と深化

第1回テーマ 先進校の実践から考える観点別評価の実践と見通し

https://bhsso.benesse.ne.jp/hs_online/seminar/2022/article/20220511_shinkatei/
大阪府立鳳高校の取り組みに加え、全国の先進校の学習評価の実践を紹介しています。5/11に公開予定ですので、ぜひご覧ください。ハイスクールオンライントップページ>新課程>指導と学習評価 よりチェック!

新課程に関する情報は、『ハイスクールオンライン』でお届けします!

- 新教育課程の参考になる先進事例
- 過去のオンラインセミナーのアーカイブ動画・資料 などを掲載!

新課程レポート

『ハイスクールオンライン』トップページ>新課程からアクセス

https://bhsso.benesse.ne.jp/hs_online/sidou/shinkatei/shidou/index.html



学年団を訪ねて

教職3年目の若き学年主任を中心に、 学校が一体となって生徒の進路実現を支援

おおま
青森県立大間高校 2学年団



学年団が直面した課題

- ◎生徒への思いが空回りし、情熱にあふれる若い学年主任と、生徒との関係に溝ができた。
- ◎多様な生徒が入学する中で、高い目標を掲げる生徒の期待にも応えるために、きめ細かな指導が求められた。

学校概要

青森県立田名部高校大間分校を前身とする。校訓は、「敬愛」「自啓」「健康」。「自己肯定力・実行する力・考え抜く力・協働する力・郷土を愛する力」を「大間GP（グラデュエーション・ポリシー）」として掲げ、教職員が一体となった教育活動を推進する。2018年度からは、青森県の高等学校教育改革推進計画により、「地域校（学校規模の標準〈1学年あたり4学級以上〉を満たさない高校のうち、募集停止等により高校への通学が困難な地域が新たに生じる高校）」に指定。地域に根差し、地域に愛される学校づくりにまい進している。

設立 1974（昭和49）年
形態 全日制／普通科／共学
生徒数 1学年約40人

2021年度進路実績（現役のみ） 4年制大は、青森公立大、青森大、青森中央学院大、八戸学院大、八戸工業大、盛岡大、湘南工大に7人が合格。短大・専門学校進学11人。就職16人。



生徒への思いが空回り…… 同僚が教えてくれた生徒の生の声

青森県立大間^{おおま}高校は、「マグロの一本釣り」で知られる下北郡大間町にある、本州最北端の高校だ。入学者数は40人程度、各学年2クラスの小規模校で、在籍する生徒の希望進路、学力は多様だ。だが、2020年度入学生は、国公立大学志望で、学習意欲の高い生徒が多かったと、当時、教職2年目で1年生2クラスの中の1クラスの担任を任された齋藤和哉先生は振り返る。

「入学後すぐに、1人の生徒が、家庭で自主学習をしたノートの点検をしてほしいと申し出てきました。そして、その生徒の取り組みを見た何人かの生徒が、自分もノート点検をしてほしいと手を挙げました。生徒の学習意欲に応えてあげたい、学力を着実に高めて、それぞれの希望進路の実現を支援したいと強く思いました」

「高い志を持ち、努力を積み重ねていけば、必ず君たちの夢はかなう！」。齋藤先生はクラスの生徒を鼓舞し、最初のうちは生徒の小さな努力も手放しで褒めた。しかし、もっと頑張ってもらいたいという思いが高じ、いつしか生徒に接する齋藤先生から、それまでであった温かみが薄れ、代わりに、厳しさが感じられ

るようになった。夏季休業明け、各教科から与えられた課題を消化できずに苦しんだ生徒には、寄り添うような言葉をかけず、何とかこなしてきた生徒にも、「それくらいは取り組んであたり前」といった態度で接した。

当時3学年団の担任の1人で、現在2学年副主任を務める今成^{こんまのり}哲先生は、生徒から「齋藤先生は自分たちのことを分かっていてくれていない」といった愚痴を聞いた時、「自分が生徒の言葉を伝えなければ、齋藤先生が成長するチャンスを失ってしまう」と思った。

「齋藤先生が頑張っていることは、全教師が知っていました。だから、生徒からそんな愚痴を言われていると知ったら、悲しい気持ちになるだろうなと思いました。でも、齋藤先生なら、その経験を糧にして、生徒との関係をよりよく再構築することができると思います」

今先生は、週末にじっくりと自分を見つめ直してほしいと考え、金曜日の下校前に、齋藤先生に生徒の言葉を伝え、齋藤先生の思いに耳を傾けた。齋藤先生は、夏季休業が終わった時点で、自分に課題を見てほしいと頼んでくる生徒がいなくなるなど、自分に対する生徒の態度が4月とは違っていることを自覚していたこと、そして、その現実から目を背けていたことを、今先生に率直に打ち明けた。



リーダーに聞く！

5つのQ&A

Q どのようなチームを目指しましたか？

A 生徒とはもちろん、先生同士でも分け隔てなく語り合い、アクティブに行動する学年団です。

Q リーダーとして心がけていることは？

A どんなに疲れている時も、「いつもの自分」でいることです。いつもと様子が違えば、周りの先生方にも生徒にも気を使わせてしまいます。特に、ネガティブな感情はできるだけ態度に出さないように心がけています。

Q 学年団としての「成功」は？

A 生徒が、自分で選んだ進路に自信を持って一歩を踏み出してくれることだと思っています。高校3年間でそういう進路を見つけてほしいです。

Q リーダーとして自覚する長所は何ですか？

A 若さと活力です。そして、トライアルアンドエラーをいとわない気持ちです。

Q リーダーとして自覚する短所は何ですか？

A 面談で、生徒から大学や入試のことを聞かれた時に、自分の知識不足を実感することがあります。もっと勉強し、周囲の先生方からたくさん吸収したいと思っています。

「土日に頭を冷やし、月曜日の家を出る頃には、生徒の言う通りだ、自分は無理に厳しく振る舞っていたと思えるようになってしまった。そして、もっと素直な気持ちで生徒に向き合い、ちょっとした努力でも認めてあげること、生徒を前向きにしていこうと考えました」(齋藤先生)

夏季休業の課題を消化できず、学習に対して後ろ向きになりつつあった生徒の気持ちを再び盛り上げるため、齋藤先生は早速進路指導主任に相談し、1年生にかかわるすべての教師がメンター役となって生徒を受け持ち、日々の家庭学習の状況を確認してアドバイスしたり、進路選択の悩みに答えたりする学習メンター制度を立ち上げた。秋以降、1学年団は、生徒個々の学習状況や進路意識の深まりなどを毎週の会議で共有するようになった。

齋藤先生は、「自分たちのことを分かってほしい」と口にした生徒を自ら希望して担当した。メンターとして、折に触れてその生徒に言葉をかけたが、2学期、そして3学期も、その生徒が齋藤先生に話しかけてくることはなかった。それでも齋藤先生は、生徒の日々の学習の取り組みを、「頑張っているね!」と評価し続けた。そんな生徒が、「志望大学合格のための学習方法について相談したいです」と言ってきたのは、1年次が

終わる3月になってのことだった。

若き学年主任を、 それぞれの強みを生かして支える

21年度、齋藤先生は2学年主任を命じられた。大きな責任を感じながら、「自分の力を最大限に発揮して、生徒たちを伸ばして欲しい」と意気込む若き学年主任を、同じ学年団に所属することになった教師たちは、それぞれの立場で支えようと決意した。

今先生は、「齋藤先生1人が悪者になるような学年には絶対にしない」と心に決めた。



写真 3年生が進路選択の歩みを振り返る進路体験発表会には、近隣の中学生も参加。地域の子どもを育てる役割を同校は担っている。

＊輝く学年団を見守る＊



教師がともに
成長する場でありたい
校長 岡 一仁 おか・かずと

小規模校の本校は、学年主任は専任ではありません。齋藤先生はクラス担任でもあるため大変ですが、管理職を含む全教師が齋藤先生を支え、みんなで成長する喜びを味わっています。グラデュエーション・ポリシーに掲げた「自己肯定力・実行する力・考え抜く力・協働する力・郷土を愛する力」は、教師にも求められる資質・能力です。先生方がともにそれらの資質・能力を高める学校であり続けたいと思っています。



気軽に語り合える
雰囲気大切にしたい
教頭 岩崎洋児 いわさき・ようじ

齋藤先生を始め、本校の先生方は生徒のために常に一生懸命です。そして、本人は気づいていない、ほかの先生から見ると「こうした方がよいのに」と思われる改善点については、齋藤先生に対して今先生がそうしたように、気軽に指摘し合える関係性を構築できています。「誰かがしてくれるだろう」「あの人がしてくれるだろう」ではなく、「みんなでしよう」といったムードを、これからは醸成していきたいと思っています。



学年団を訪ねて



2学年副担任・教務部
高橋七海 たかはし・ななみ
教職初年度。同校に赴任して1年目。
国語科。



2学年副担任・進路指導部
佐藤幸夫 さとう・ゆきお
教職歴13年。同校に赴任して1年目。
数学科。



2学年副担任・担任・学年生徒指導
今成哲 こん・まさのり
教職歴5年。同校に赴任して4年目。
商業（ビジネス情報）科。



2学年主任・担任
齋藤和哉 さいとう・かずや
教職歴2年。同校に赴任して3年目。
理科（生物）。

「もしも、学年主任としての齋藤先生の言葉を理解できない生徒がいたら、『齋藤先生はこういう思いを持っているんだよ』と、その生徒に分かりやすく説明するのが担任の役割です。学年の生徒全員が齋藤先生の言葉を理解し、信じていることができるよう、サポートしていこうと思いました」

前任校などでの担任経験が豊富な佐藤幸夫先生は、齋藤先生が1か月先、3か月先を見通して行動できるようにアドバイスをしていこうと考えた。

「教師になつて3年目の時には、私もたくさん失敗をしました。その失敗を思い出して、齋藤先生に何事も早めに助言することで、若い学年主任に自信を持って動いてもらいたいと考えました」

同校の教師では最年少で、教職1年目の高橋七海先生は、生徒との年齢の近さを生かし、授業で気づいた生徒のつまずきや、何気ない会話で感じた生徒の心情の変化などを齋藤先生に共有している。

「齋藤先生の机の上には、担当の理科以外の教科の参考書が積まれています。生徒に質問されて答えられないと悔しいから勉強しているのだそうです。英語の小テストも生徒と一緒に受けて、競争しています。生徒が目標に近づくために、自分ができることなら何でもしようという情熱が伝わってきます」

2学年団は新しい試みにも挑戦し始めた。進学希望のクラスでは、生徒の志望と学力に合わせたよりきめ細かな指導を目指し、習熟度別授業を導入。また、夏季休業の前には、各教科が出す家庭学習の課題を一覧にして生徒に配布し、学習メンターの教師が学習計画をアドバイスすることにした。さらに、2年次の1月には、放課後、学校に残って勉強したいという生徒の声を受けて、学習室を設置した。平日19時まで使用可能な学習室には、

連日4、5人の生徒が足を運んでいる。

「最近では、就職希望の生徒も学習室で勉強するようになりました。希望進路は違っても、それぞれの目標に向かって努力しようとする雰囲気が出てきたと思います」（齋藤先生）

教職3年目の自分は知識も経験も不足しているからこそ、失敗を恐れず、熱意を持って、いつも挑戦していきたいと齋藤先生は語る。

「周囲の先生方から、たくさんサポートをしていただいていると、日々感じています。先生方の力を借りながら、生徒一人ひとりの希望進路を実現するための方策を、これからも追究していきます」

* 学年団 輝きのポイント *

- * 生徒への言葉がけや、学年団としての先を見通した行動などに関して、経験のある教師が学年主任をサポート
- * 学習メンター制度や習熟度別授業など、生徒の志望と学力に合わせた支援策を次々と実行

※プロフィールは、2022年3月時点のものです。

著作権と プライバシーの侵害

解説者



日本女子大学
教職教育開発センター
教授 坂田 仰

大阪府の公立高校に勤務後、東
京大学大学院法学政治学研究所
公法専攻博士課程単位取得退
学。1996年、日本女子大学に
赴任。専門は、憲法学、公教育
制度論。2021年9月に『新訂
第4版 図解・表解教育法規』(共
著、教育開発研究所)を出版。

学校で起こり得る危機に対し、どのような備えをしておくべきか。事故や災害などが発生したら、被害を最小限にとどめるためにどう対応すればよいのか。学校の危機管理について研究する坂田仰教授が解説する本コーナー。第7回は、著作権とプライバシーの侵害について解説する。

学校には著作権の例外措置があるが、 拡大解釈や目的外使用には要注意

学校には著作権の例外措置が適用され、著作権者の許諾がなくても、小説や絵、音楽などの作品を、一定の範囲で利用することができます。先生方も、補助教材として様々な著作物を活用されていることでしょう。ただ、ICTの普及により、著作権に関して慎重な対応が求められる場面が増えてきました。そこで今回はまず、著作権を侵害しないためのポイントを解説します。

著作権とは、著作物を創作した人が有する権利です。著作物は、「思想又は感情を創作的に表現したものであって、文芸、学術、美術又は音楽の範囲に属するもの」と定められ

ています(*1)。著作物を創作した時点で著作権が発生しますが、届け出は不要です。例えば、生徒が制作した論文や絵なども著作物であり、制作した生徒が著作権を有します。

学校での著作権の例外措置は、授業や特別活動などにおいて、教える者(教師)と教えられる者(児童生徒)が主体の活動であれば、授業に必要な限度内で、また、著作権者の利益を不当に害しない範囲内で、著作物の複製などができるというものです(図)。試験問題についても、著作権者の事前の許諾を得ずに著作物を使用できます。なお、原則、著作者名や題名など、出所の明示が求められています。では、次の3つのうち、著作権の侵害にあたるケースはどれでしょうか。

①教師が購入した市販の問題集の1ページ

著作権やプライバシーを侵害しないために

- ✓ 例外措置を拡大解釈せず、著作権への意識を高める。
- ✓ 生徒が制作した論文や絵などを学校外で使用する場合は、生徒の許諾を得る。
- ✓ 著作物を使って作成した教材を、生徒の端末に送信するためには、補償金の支払いが必要。
- ✓ オンライン授業などを行う際、生徒の顔や著作物が不用意に映り込んでいないか確認する。

*1 著作権法第2条1項1号による。

図 学校その他教育機関における複製等に関する例外

下記の条件を満たせば、補助教材などとして、複製・インターネットなどでの送信・授業などでの伝達ができる。

- ① 営利を目的としない教育機関であること
- ② 授業を担当する教員やその授業等を受ける児童生徒がコピーして配布したり、Eメールなど、インターネットを介して送信したりすること
- ③ 本人（教師または児童生徒）の授業のために使用すること（特別活動、部活動なども、例外措置の対象となる）
- ④ 著作物の利用範囲は授業に必要な限度内で、コピーの部数・インターネットを介した送信先は、授業のクラスの人数内とすること
- ⑤ 既に公表された著作物であること
- ⑥ その著作物の種類や用途などから判断して、著作権者の利益を不当に害しないこと（児童生徒を対象として販売されているドリル等はこれに該当するため、例外措置の対象外）
- ⑦ 原則として、著作物の題名、著作者名などの「出所の明示」をすること

※著作物を使用したものを、メールやクラウドサービスなどのインターネットを介した送信などをする場合には、学校の設置者が補償金を支払う必要がある（授業目的公衆送信補償金制度）。

※文化庁「学校における教育活動と著作権 令和3年度改定版」を基に編集部で作成。

を、クラス全員にコピーして配布。

②文化祭で生徒が制作した人気キャラクターのオブジェを、市民文化祭に出品。

③書籍から写真を複製した自校の入試問題を、

自校のウェブサイトにて過去問題として掲載。

いずれも著作権者に無許諾で行えば、著作権の侵害にあたります。①は、著作権者の利益を不当に害しているケースであり、例外措置を拡大解釈していると言わざるを得ません。②は、出品に際して生徒の許諾が必要です。そして、教育活動ではない市民文化祭での展示には、キャラクターの著作権者の許諾

も求められます。③は、ウェブサイトへの掲載が試験実施とは異なる目的での利用となるので、写真の著作権者の許諾が必要です。

デジタル化によって複製や加工、配布が容易になるからこそ、一層の配慮を

ICTを活用した教育での著作物利用を円滑にするため、補償金を支払うことで、一定の範囲内で著作物をデジタル化して使用できる「授業目的公衆送信補償金制度」の運用が、2020年4月に始まりました。それにより、授業の過程において、教師が書籍やテレビ番組の録画などを用いて作成した教材を生徒の端末に送信することや、生徒がインターネットで収集した図や写真を使って資料を作り、クラウドサーバーにアップロードするといったことが無許諾で行えるようになりました。デジタル化されると、複製や加工、配布などが容易になりますから、著作権への配慮が一層求められます。例えば、教科書や補助教材が映った動画を学校のウェブサイトで公開することは、著作権の侵害にあたります。公開すれば生徒以外の人が活用できる状態ですから、授業以外の目的で使用される可能性があるため、目的外使用にあたりません。20年度は特例として無償でしたが、21年度

からは通常運用となりました。児童生徒1人あたりの金額が設定されており、学校設置者である自治体や学校法人等が、同制度を管轄するSARTRAS（*2）に申請・支払いをすることで、著作物のデジタル使用が可能になります。

オンライン授業で不用意に生徒の顔が映り込んでいないか

オンライン授業では、無意識のうちに生徒のプライバシーを侵害していないかどうかにも留意しましょう。例えば、授業をライブや録画で配信する際、教室で発表する生徒の顔が映るケースがあると思います。そのような時には、顔が映る生徒、及び保護者に配信しよいか確認する必要があります。

プライバシーに関しては、個人情報保護の観点での対応が求められますが、現在、関係する法律を改正し、個人情報保護制度の見直しが行われています。これまで、個人情報の保護に関して、国立・公立・私立それぞれで適用される法律・条例が異なっていました。それを一元化し、加えて個人情報等の定義の統一、ルールの再構成がなされる予定です。個人情報の取り扱いに関しても変更が見込まれるので、今後の動向に注意が必要です。

* 2 Society for the Administration of Remuneration for Public Transmission for School Lessons の略称。正式名称は、一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会。詳しくは右記ウェブサイト参照。https://sartras.or.jp

これからの
進路指導のための
世の中トレンド解説

生徒の学びや進路選択、その後の人生に影響を与えるような革新的な技術や価値観を「社会のトレンド」として解説します。

トレンド・ワード

カーボン ニュートラル

2050年頃までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロに

ここ数年、かつてない規模の大雨や台風、熱波、干ばつなどが世界各地で頻発し、私たちの生活と生命を脅かしています。これらの気候の変化は、以前から地球温暖化の影響によるものであることが指摘されてきましたが、気候科学の進展によって、近年、その因果関係が科学的に証明されるとともに、今後の気候の変化と影響も予測されています。現在は、工業化前（1850～1900年）に比べて気温が約1℃上昇していますが、気温がさらに上昇すると、大雨や熱波などの発生の回数や強度がさらに高まると予測されています（図）。このままでは、今世紀中に気温の上昇は3℃を超え、直ちに対策を強化しなければ、人類は気候変動の深刻な影響を受けるといふ予測がIPCC（*）から示されています。

2015年に各国が合意したパリ協定は、気温の上昇を2℃、できれば1.5℃に抑えること、そのために、今世紀中には温室効果ガスの排出量を正味ゼロにすることを世界共通の目標として掲げています。その達成には、世界の温室効果ガスの排出量の7～8割を占める二酸化炭素の排出削減が必須で、植林などによって二酸化炭素の吸収量が増やせる範囲内に排出量を抑え、全体として排出を「ゼロ」にする「カーボンニュートラル」の実現が必要です。

図 気温の上昇による気候への影響

工業化前（1850-1900年）の 気温と比べての上昇度		1℃（現在）	1.5℃	2℃	4℃
10年に1度の熱波 などの極端な高温	高温の水準	+1.2℃	+1.9℃	+2.6℃	+5.1℃
	発生の頻度	2.8倍	4.1倍	5.6倍	9.4倍
50年に1度の極端 な高温	高温の水準	+1.2℃	+2.0℃	+2.7℃	+5.3℃
	発生の頻度	4.8倍	8.6倍	13.9倍	39.2倍
10年に1度の大雨	雨量	+6.7%	+10.5%	+14.0%	+30.2%
	発生の頻度	1.3倍	1.5倍	1.7倍	2.7倍
10年に1度の農業 や生態系に被害を 及ぼす干ばつ	発生の頻度	1.7倍	2.0倍	2.4倍	4.1倍

※高村教授がIPCC第6次評価報告書を基に作成した資料を引用して編集部で作成。

解説者



東京大学 未来ビジョン研究センター 教授
高村ゆかり たかむら・ゆかり

専門は国際法・環境法学。国際環境条約にかかわる法的問題、気候変動に関する法政策などを研究。中央環境審議会会長、東京都環境審議会会長、日本学術会議会員等を務める。

※プロフィールは、2022年3月時点のものです。

* Intergovernmental Panel on Climate Change の略で、「気候変動に関する政府間パネル」。気候変動に関する最新の科学的知見の評価を提供している政府間組織で、世界気象機関（WMO）及び国連環境計画（UNEP）により、1988年に設立された。

環境政策であり、産業政策でもある

今、140以上の国とEUがカーボンニュートラル目標を掲げています。日本も20年10月、50年に温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すと言明し、30年までに温室効果ガス排出量を13年と比べて46%削減し、50%の削減を目指すという目標を掲げました。エネルギー使用量の削減、二酸化炭素を排出しないエネルギーへの転換などの対策を進め、コロナ禍で落ち込んだ経済の復興策に気候変動対策を組み入れ、持続可能な経済社会を目指しています。国の地球温暖化対策をまとめた「地球温暖化対策計画」、日本の温室効果ガス排出量の約85%を占めるエネルギーの低炭素化・脱炭素化を目指すエネルギー基本計画など、この1年間で様々な政策が出されました。

企業の動きはさらに速く、再生可能エネルギーへの転換などを進めるとともに、自社だけでなく、取引先にも二酸化炭素の排出削減を求める動きが強まっています。例えば、自動車メーカーなどが、部品を調達する企業に、製造工程などで排出される二酸化炭素の削減を求めています。投資・融資する金融機関も企業に気候変動対策を促しています。つまり、カーボンニュートラルへの取り組みは、企業の価値や競争力を左右する課題となったのです。これまで、気候変動問題を始めとする環境問題への対応は、社会貢献活動の一環として行われる場合が大半でした。しかし、今やあらゆる企業にとって、経営課題となり、この1～2年で、カーボンニュートラルの実現に本腰を入れて取り組む企業が格段に増えました。それに伴い、オフィスを提供する不動産会社など、企業の脱炭素への対応を支える事業も拡大しています。そのため、気候変動に関する基礎知識を持つ人材を求める企業が増えています。

このように、気候変動への対応は、環境政策であり、産業政策でもあります。理学や工学にとどまらず、経済学や経営学、法学など、様々な学問からアプローチすることができます。その際の基礎・基本として、気候変動のメカニズムや影響についての知識を持つことが必須と言えるでしょう。

VIEWnext ONLINEでは、トレンド・ワードを「学ぶ・働く・暮らす」の切り口で、さらに詳しく解説。関連分野のテーマを小論文で出題した大学・学部名も一部紹介しています。VIEWnext ONLINE ▶▶▶



For Teacher Section

教師個々の教科指導・進路指導に役立つ事例や情報を、先生方の思いを乗せてお届けする

P.40

発問・課題設定をキーに見る

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

教科の見方・考え方を働かせる
問いや課題を通じて学びが深まる授業に迫る

お勧めの分掌▶

教務担当

担任

英語 埼玉県・私立西武学園文理中学・高校 土屋進一 P.40

他教科の学習内容を英語で学ぶ授業で、生徒の思考を深め、複眼的な視野を養う

数学 兵庫県立三田祥雲館高校 藤原 雄 P.44

個と集団でのアウトプットの往還で、本質的な理解に迫る深い学びにいざなう

P.48

マイ・ストーリーを語る
生徒を育む進路指導

これまでの自分と将来の自分を、
大学での学びと結びつけて語る生徒を育む

お勧めの分掌▶

進路担当

学年団

担任

テーマ 3年次1学期 志望理由書作成の支援
北海道旭川永嶺高校 進路指導部と3年次団

第1志望届や図書レポートを基に、
内面を掘り下げる問いを繰り返す

P.50

変化の激しい社会に飛び込む生徒に伴走
クローズアップ! 就職指導

社会や企業が変化する中、
就職活動を頑張る生徒をどう支援するか

お勧めの分掌▶

進路担当

学年団

担任

就職指導の実態と課題

今後の進路指導には、就職指導の前倒しと
教師間の役割の分散が必要
三重県立桑名北高校 井上和也

P.52



お勧めの分掌▶

学年団

新課程初年度でも迷わない! 各月の指導のポイントをリストアップ

4月5月6月のポイント

学校を超えたネットワークで、
新課程初年度の好スタートを!

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

英語

他教科の学習内容を英語で学ぶ授業で、
生徒の思考を深め、複眼的な視野を養う

埼玉県・私立西武学園文理中学・高校 土屋進一

8:55 単語当てゲーム



ペアの1人がある言葉を英語で説明し、もう1人がその言葉を当てる「Word Definition Game」を行った。本時に扱った言葉は、授業内容にかかわる「宮中」と「帝」で、正解したペアから着席。全員着席した後、土屋先生が各語の英語での説明を読み上げ、生徒はそれを復唱した。

本時の概要

【対象／教科／科目】2年生／英語／コミュニケーション英語Ⅱ
 【分野・単元】『源氏物語』『桐壺』の原文と英訳の比較（全1時間。P.43に本時の指導計画を掲載）
 【育成を目指す資質・能力】思考力、表現力、協働性
 【学習内容】国語科との教科横断型授業で、既習の『源氏物語』『桐壺』の冒頭部分を英訳することが課題。ウォーミングアップの後、「桐壺」の原文と既存の2種類の英訳とを比較し、気づいたことを班ごとにも共有。古文を英訳する方法や留意点などを学んでから、各自で英訳を作成した。

主 主体的な学び
 対 対話的な学び
 深 深い学び

9:25 気づきを発表して共有



各班が「英訳Aの方が原文に近い」「英語には敬語の概念がない」などの気づきを発表。土屋先生が、「『時めく』は“loved”より“was favoured”の方が適切ですか」と投げかけると、中澤先生は、「『時めく』には受け身の意味があるので、後者が適切です」と解説した。

つちや・しんいち 教職歴18年。同校に赴任して19年目。英語科教長。学習塾勤務後、大学院で英語教育や第二言語習得などの理論を学び、現任校に赴任。現在、授業動画の配信、執筆、講演等を通じて自身の経験やスキルを公開し、英語教育の向上に努めている。

学校概要

◎自然豊かな埼玉県狭山市の郊外にある私立の中高一貫校。教育方針は、「すべてに誠をつくし最後までやり抜く強い意志を養う」。進学教育・人間教育・グローバル教育を3本柱として、学ぶ意義を考える課題解決型学習、海外研修や留学生の受け入れなどを通じた国際理解教育等、意欲的な教育を展開している。

◎設立 1981（昭和56）年

◎形態 全日制／普通科・理数科／共学 ◎生徒数 1学年約300人

◎2021年度入試合格実績（現浪計） 国公立大は、北海道大、東北大、筑波大、東京大、京都大、神戸大、横浜国立大などに35人が合格。私立大は、青山学院大、慶應義塾大、上智大、東京理科大、法政大、明治大、立教大、早稲田大などに延べ720人が合格。

※プロフィールは、2022年3月時点のものです。



9:12 原文と既存の英訳を比較



土屋先生が、本時の課題は「桐壺」の冒頭部分の英訳であることを説明。生徒は3～4人ずつの班となり、原文と既存の2種類の英訳とを比較して、気づいたことを話し合った。机間指導で、中澤先生は「『思ひあがる』はプライドを高く持つことで、悪い意味ではないよ」などと、古語の意味を解説した。

9:06 古語の説明文選択クイズ



土屋先生と国語科の中澤美智子先生が、「やんごとなし」「時めく」の古語を例に、『源氏物語』の英訳の難しさを英語で語り合った。次に、古文の授業の復習として、『源氏物語』に登場する古語の英語での説明文を3つの選択肢から選ぶクイズを行い、「御時」「さぶらふ」など、7問を出題した。

本時のキー課題

9:40 生徒の英訳を講評



生徒の英訳をホワイトボードに映し、「“certain” を使って時代をぼかし、寵愛を“jealous” で表すなど、単語選びが的確ですね」などと、土屋先生が講評。中澤先生は、「本作品の素晴らしさを考えるきっかけにしてほしい」とエールを送った。最後に、各自が自己評価シートに記入した。

9:30 オリジナルの英訳を作成



ホームステイ先でホストファミリーに『源氏物語』の冒頭部分を説明するという場面設定で、「桐壺」の英訳を各自で作成。読み取った内容を自分の言葉で説明するリテリングも可とした。作成を終えた生徒は、スマートフォンで自分の英訳を撮影し、その画像をクラス共有のフォルダに送信した。

● 私が目指す授業

「コンテンツ重視の授業で
「深い学び」を目指す

本校に赴任して約10年間は、分かりやすい授業こそがよい授業だと考え、様々な外部研修に参加し、そこで学んだ手法を試しては生徒の反応を見るといった試行錯誤の連続でした。ある時、授業の冒頭で「World Definition Game」を行ったところ、生徒の目が格段に輝き、「これだ!」と思いました。それをきっかけに、生徒同士が英語でやり取りをする中で、自身の成長を実感できる活動中心の授業こそが、生徒の心をつかみ、私自身も楽しく授業ができることに気づきました。今で言う、「主体的・対話的な学び」を通じて英語4技能を統合的に伸ばしていく、現在の授業スタイルに行き着きました。

また、生徒が「深い学び」に到達するよう、コンテンツ重視の課題に取り組みせています。他教科の学習内容や異文化理解などを、英語で学びながら、英語4技能を統合すると同時に思考力も養う授業です。それが、CILEL(*)と同じ考え方であると、後に知りました。

* Content and Language Integrated Learning の略で、日本語では「内容言語統合型学習」と訳される。教科やテーマの内容と外国語を組み合わせた学習で、外国語の習得とコンテンツの理解を等しく重視し、思考力やコミュニケーション能力の育成を図る学習方法。

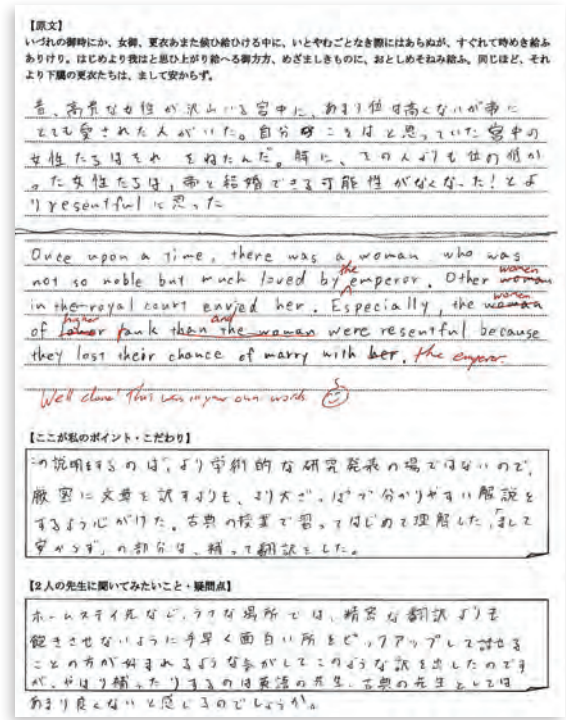
現代社会は先行きが不透明だと
 われていますが、そうした時代を生
 き抜くためには、様々な事象を結び
 つけながら考え、複眼的な視点で課
 題に取り組む力が求められます。そ
 こで、文理融合や教科間のつながり
 を生徒が意識できる授業が必要だと
 考えました。

●私の発問・課題設定の観点
英語と他教科の双方の学びの効果を想定し、教師2人で細部を検討

4年前、進化論をテーマにした大
 学入試問題を授業で扱った際、理科
 の教師に解説をお願いしたところ、
 内容をよく理解できた生徒に好評
 でした。C・L・Lの観点からも、教
 科横断型授業は英語学習に効果的だ
 と考え、以降、学期に1回のペース
 で実施しています。これまで、国語
 科、地理歴史・公民科、数学科、理科、
 家庭科と授業を行いました。

例えば、物理と連携した授業では、
 “speed”と“velocity”の違いをテー
 マにしました。私が2つの英単語の
 定義を英語で伝えた後、理科の教師
 が「速さ」と「速度」の違いを数式
 を用いて解説しました。“speed”
 は速度の大きさを表し、“velocity”

図1 生徒の英訳(例)



※学校資料をそのまま掲載。

図2 自己評価シート(例)

評価項目	自己評価
1. パワーワークやグループワークで他の生徒と協力しながら学習ができた。	5 (4・3・2・1)
2. 古典と英語を比較し、言語的な共通点や相違点を探ることができた。	5 (4・3・2・1)
3. これまで学んだ知識を活かしてオリジナルの英訳を作成することができた。	5 (4・3・2・1)
4. 今日の授業の中で「学んだこと」「気づいたこと」「深まったこと」を教えてください。 英語で古文を読み、ただ内容を理解するだけでなく、 単語1つ1つの意味を考へてはいたないので、英語の がつだけだけでなく、古文の理解を深めることにすると 思った。古文も英語も慣れない言語であるが組み合 わせるととても深い内容になって、とても面白かった。 最後に先生がおっしゃっていた“Once upon a time” の話は、はじめて聞いた話だったので、とても勉強に なった。	

※学校資料をそのまま掲載。

は一定のベクトルを持った速度を示
 すものだと理解することで、生徒は
 2つの英単語の本質的な違いもつか
 めたと思います。

教科横断型授業では、事前準備が
 重要です。私の場合、一緒に授業を
 行う教科の担当と話し合ってテー
 マを決めた後、私が作成した授業案を
 たたき台にして意見を出し合いなが
 ら細部をつめていきます。その過程
 に5時間ほどかかります。

本時の準備では、生徒に既存の英
 訳を提示するかなしかなが論点にな
 りました。中澤先生と検討した結果、
 英語には尊敬語・謙譲語といった敬

語の区分けがない点や、翻訳にあたっ
 ては冗長な部分はあえて省略される
 点など、原文と英訳との比較によっ
 て、言語や文化、思考法に違いがあ
 ることに気づいてほしいと考え、英
 訳を提示するにしました。原文
 に忠実な英訳と、意識的な英訳の2
 種類を用意したことで、生徒の多様
 な気づきにつながりました。

古語の英訳(図1)では、文脈を
 踏まえて原文を理解し、それに適切
 な英単語や語句をあてはめる必要が
 あります。その過程で、丁寧に辞書
 を引くことの大切さや、微妙なニュ
 アンスの違いを考慮する必要性を

感できたのではないかと思います。

授業では、一緒に授業を行う教師
 と私とのやり取りを大切にしていま
 す。生徒の反応や生徒から出される
 質問を想定し、それらへの対応案を
 できる限り用意して台本を作り、2
 人で授業のリハーサルも行います。
 また、一緒に授業を行う教師が英語
 を使う場面を必ず設けています。ミ
 ドリムシをテーマにした授業では、
 ミドリムシが人の栄養状態の改善に
 寄与することを家庭科の教師に、ま
 た、理科の教師には動物と植物の特
 徴を併せ持つミドリムシの性質を、
 それぞれ英語で解説してもらいまし

グローバル人材にふさわしい教養を

国語科・中澤美智子先生

今回初めて、英語科との教科横断型授業を行い、私自身にもたくさんの気づきが生まれました。古語を英語に翻訳する作業は、生徒だけではなく、私の言語への関心を高めてくれることとなったのです。



例えば、今回扱った英訳の1つは、「父の大納言は亡くなりて」の箇所を訳すのに「dead」という語を用いました。あまりに直接的過ぎる表現に違和感を覚え、土屋先生にお話ししたところ、「私なら『passed away』と訳しますね」とのこと。そこで、もう1つの英訳を確認すると、そちらは「was no longer living」と、婉曲的な表現となっていました。今回の授業を通じて、言葉を正確に用いるよう心がけることはもちろん、より適切な言葉を選択することの大切さ、さらには、より美しい表現を追究することの面白さを改めて感じることとなりました。

約1000年も前に、『源氏物語』のような文学作品が与えられたことを、私たち日本人はもっと誇ってもよいと思います。生徒たちには、日本人としてのアイデンティティを確立し、将来、自信を持って「日本」を世界に発信できるような人材になってほしいと思っています。今回の授業が、そのきっかけになることを願っています。

た。他教科の教師が英語で話すことに挑戦する姿は、生徒にとっても大きな刺激になると考えています。

● **成果と展望**

他教科との関連を整理し、計画的に教科横断型授業を実施

教科横断型授業の魅力は、異なる教科による連携が生む「化学反応」にあります。それまで教科ごとに学んでいた事柄のつながりに気づいた時、生徒の目は輝きます。それこそ

生徒が「深い学び」に達した瞬間であり、私にとつてのやりがいになっています。自己評価シートに、「英語と他教科のつながりが分かり、両教科への興味・関心が高まった」といった感想が書かれることも少なくありません(図2)。

今後の課題は、教科横断型授業を年間指導計画に組み込むことです。学期に1回は行っていますが、現状は、単発的な内容にとどまっています。例えば、英語の授業でアパルトヘイトの単元を学習していた時、世界

VIEWnext ONLINE では、
本時の授業の様子を
ダイジェスト動画で紹介!

VIEWnext ONLINE 検索

さらに、校内の連携にとどまらず、他校とのオンライン授業も検討中です。日本全国の先生方とノウハウを共有し、海外にも交流の輪を広げていくことで、日本の英語教育の底上げに貢献できればと考えています。

史では近代の植民地政策を学んでいると知り、世界史の教師に具体的な学習内容を聞きました。すると、学習内容に合致する点があることが分かり、教科横断型授業を実施したところ、歴史的な背景を踏まえた深い学びが英語の授業で実現しました。

教科横断型授業を意図的に行うためには、生徒がどの時期に何を学ぶのかを把握することが必要です。カリキュラム・マネジメントの視点から、英語と他教科の学習内容のつながりを整理し、年間指導計画を組み立てたいと考えています。

単元の指導計画

【教科・科目】英語・コミュニケーション英語Ⅱ 【分野・単元】『源氏物語』『桐壺』の原文と英訳の比較 【テーマ・作品】『源氏物語』『桐壺』 【設定時数】1時間 【単元目標】①古文と英語の両方の視点から作品の理解を深める。②翻訳時の背景知識の大切さに気づく。

時数	学習内容	身につけさせたい 資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価方法
1	『源氏物語』『桐壺』のオリジナル英訳の作成	これまで学習した知識を用いて意欲的に探究している 【思考力、表現力、協働性】	①ペアで古文の知識を英語で確認する。 ②3～4人ずつの班をつくり、『源氏物語』『桐壺』の原文と英訳を比較して、気づいたことを話し合う。 ③話し合ったことを踏まえ、オリジナルの英訳を作成する。 ④生徒のオリジナル英訳を全体で共有し、英語科・国語科の教師と生徒でディスカッションをする。 ⑤自己評価シートに振り返りを記入する。	【主体的な学び】これまで学習した古文の知識を用いて英語で表現できるように指示をする。 【対話的な学び】班で協力して活動できているか、確認する。 【深い学び】英訳が完成したら、生徒に説明させ、助言、指導を行う。	自己評価シート

※土屋先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

数学

個と集団でのアウトプットの往還で、

本質的な理解に迫る深い学びにいざなう

兵庫県立三田祥雲館高校 藤原 雄ゆう

本時の概要

〔対象／教科／科目〕2年生／数学／数学Ⅱ
 〔分野・単元〕積分法（本時は、全6時間のうちの6時間目。P.47に本時の指導計画を掲載）
 〔育成を目指す資質・能力〕知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、協働性
 〔学習内容〕生徒は、本時の学習内容である放物線と円が囲む面積の求め方を、教科書や教師作成の動画で予習。授業では、その理解度を確認する基本問題に個人で取り組み、グループで教え合った後、教師が解法を説明した。次に、発展問題に個人・グループで取り組み、教師が解法のポイントを説明した。

主 主体的な学び
 対 対話的な学び
 深 深い学び

10:45 基本問題で予習内容の理解度を確認



主

生徒は、教科書や藤原先生作成の動画で予習してきた内容の理解度を確認する基本問題に、10分間取り組んだ。その間、藤原先生は、生徒が提出した予習ノートに目を通すとともに、生徒の様子を見て回り、生徒がどこでつまづいているかなどを把握した。

本時のキー課題

11:18 ペアで解法を説明し合う



主
 対
 深

2人1組となり、基本問題の解法を2分間で説明し合った。藤原先生は、「相手に必ず1つは質問しよう」と、問題や解法を正確に理解し、説明できているかを確認することを求めた。次に、「数学的な表現」「説明理解度」などの4項目から成るルーブリックを基に、ペアで互いの説明を評価した。

ふじわら・ゆう 教職歴12年。同校に赴任して8年目。数学科。2学年副主任。これからの時代に必要な資質・能力を生徒に育みたいという思いから、2017年度より反転授業を導入し、生徒主体の授業づくりに力を入れている。

学校概要

◎校訓は「自律・創造・敬愛」。兵庫県のニュータウンに位置する単位制高校。2009年度、文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール」の指定を受け、現在2期目。設立当初から探究学習に力を注ぎ、次代を担うリーダーに求められる資質・能力の育成を図っている。

◎設立 2002（平成14）年

◎形態 全日制・単位制／普通科／共学 ◎生徒数 1学年約240人

◎2021年度入試合格実績（現浪計） 国公立大は、北海道大、東北大、横浜国立大、名古屋大、京都工芸繊維大、大阪教育大、大阪大、神戸大、広島大、国際教養大、大阪市立大、大阪府立大、兵庫県立大などに109人が合格。私立大は、同志社大、立命館大、関西大、近畿大、関西学院大、甲南大などに延べ498人が合格。

※プロフィールは、2022年3月時点のものです。



11:15 解法のポイントを解説

主
深

藤原先生は、解法のポイントを示したスライドをプロジェクターに映して解説。スライドは後でオンライン学習システムで共有することを伝えて、解説をしっかり集中して聞くよう促した。そして、「答えを求めるために必要な情報を順序立てて考えよう」などとアドバイスした。

10:57 グループで学び合う

主
対
深

席の近い生徒2～3人で答えや解法を見せ合い、分からない点を教え合った。藤原先生は、「正解した人に考え方を聞きに行って」と、生徒に行動を促した。さらに、藤原先生は、「座標がまだ導き出せていない人は、前に来て」と、初歩でつまづいている生徒を集め、個別に説明した。

11:34 発展問題の解説と振り返り

主
深

藤原先生は、スライドを用いながら発展問題の解法のポイントを説明した後、模範解答を配布した。最後に、生徒は、本時の学習の自己評価や気づき、反省点を振り返りシートに記入。授業終了後、複数の生徒が藤原先生の周りに集まり、先生に別解を聞いたり、不明点を質問したりしていた。

11:25 発展問題に取り組む

主
対
深

発展問題に個人で取り組んでから、生徒同士で学び合った。基本問題を通して本時の学習内容が理解できたことで、多くの生徒がスムーズに解き進めていた。藤原先生は、「周りと答えを確認し合って」「答えにたどり着けなくても、解き方の方針を押しさえておこう」と、学び合いを促した。

● 私が目指す授業

生徒のアウトプットを増やすため、反転授業を取り入れる

以前は、教師の役割は分かりやすい授業をすることだと考えていました。しかし、授業アンケートで、私の授業が「生徒主体の授業だと思つ」と答えた生徒は半数にも満たず、生徒に必要な資質・能力を育てていないのではないかと感じました。また、学習動画やデジタル教材などが次々と現れる中で、学校でしかできない学びを追究しようと考えました。

そうした課題意識の下、指導法を模索する中で、「ラーニングピラミッド」(*)に出合い、「他者に教える」「グループで討論」といった能動的学習が定着度を高めやすいことを知りました。そこで、生徒のアウトプットを充実させるという視点で試行錯誤した結果、生徒が学習内容を予習し、授業では知識の確認や問題解決型学習を行う反転授業に行き着きました。現在は、事前に予習範囲を指定し、授業は、①予習の確認(基本問題)、②学び合い、③発展的な学習、④振り返り、といった流れにしています。生徒が学習内容をアウトプッ

* アメリカ国立訓練研究所が学習方法と定着率の関係を示した学習モデル。「講義」「読書」といった受動的学習に比べ、「他者に教える」「自ら体験する」「グループで討論」といった能動的学習の方が学習定着率は高いという結果を示した。

トする時間を確保し、私はファシリテーターに徹しています。生徒の学び合いが深まっていないと感じた時には、解法のポイントを説明します。

予習用動画は、生徒が集中して取り組めるよう、ポイントを絞って、10分程度にまとめています。タブレットの画面やノートに手書きしたものを基に撮影し、編集する方法にするとともに、撮り直しはしないと決めて、1本あたり30分程度で作成しています。予習の方法は限定していませんが、多くの生徒は、私が作成した動画を活用しています。

●私の発問・課題設定の観点

複数回のアウトプットで

曖昧な点を解消し、理解を深める

授業は、個と集団での学びを往還し、アウトプットを何度も行うことで、本質的な理解に結びつくようにしています。まず1回目のアウトプットとして、生徒は、その授業で取り上げる学習内容に関する基本問題に個人で取り組みます。次に、生徒同士で分からない点などを教え合います。その際、席の移動は自由とし、正解した人を見つけて、分からない点を質問するよう、生徒に促します。

それが、2回目のアウトプットであり、自分と他者の考えを照らし合わせながら理解を深めていきます。

本時は単元のまとめの授業だったため、基本問題は大学入試の過去問題から選びました。放物線と円が異なる2点で接する時の、(1)2つの接点の座標を求めよ、(2)放物線と円とで囲まれる図形の面積を求めよ、という問題です。途中、(1)でつまづいている生徒を集め、「2直線の垂直条件を使う」などのヒントを出しました。そのようにして生徒に知識を与え、学び合いに参加できるようにしています。

基本問題のアウトプットは、個と集団での計2回を基本としています。が、本時は(2)の解法の方向性を見いだせていない生徒が多いと判断し、「円と放物線の方程式から面積を求めるのではなく、扇形の面積に着目する方法が近道」と解説した後、解法をペアで説明し合う3回目のアウトプットを設けました。問題を解くために必要な情報を考え、解法を順序立てて説明することを意識させるとともに、理解が曖昧な点に気づけるよう、ペアの相手に必ず1回は質問するよう指示しました。さらに、ルーブリックで相手の説明を評価し

合う機会も設けました(図)。

3回のアウトプットを通して、多くの生徒が問題の本質を理解でき、発展問題をテナポよく解いていました。発展問題を遠回りな方法で解いていた生徒もいましたが、遠回りではなく無駄であるとは限りません。自分なりに考え、じっくりと問題に向き合うからこそ、他の生徒との学び合いや教師の解説を通して、「こんな解き方があるのか」といった気づきにつながり、理解が深まると、生徒に伝えています。

●成果と展望

学習に取り組む態度が改善、模擬試験の成績も向上

授業中は常に書いたり、話したり

図 解法の説明を相互評価する際のルーブリック

該当するものに○をつけてもらいましょう。		聞き手 ()		
	A	B	C	
数学的な表現	数学的に正しい用語を用いて説明できていた。	一部誤った表現をしていたが、それ以外は正しい用語を用いて説明できていた。	数学的に誤った表現が多かった。	
声	はっきりした声でスムーズに話すことができていた。	若干聞き取りにくい箇所があった。	声が小さく、何を言っているのかよく分からなかった。	
説明理解度	分かりやすく説明できていた。	分かりにくい部分もあったが、大まかな内容は理解できた。	説明が不十分で、内容が理解できなかった。	
質問への対応	質問に対する受け答えがしっかりとできていた。	質問に対する受け答えがある程度できていた。	質問に対する受け答えがあまりできていなかった。	

※学校資料を基に編集部で作成。

していますから、生徒はおのずと主体的になります。また、学び合いに入れないことがないよう、生徒は必ず予習をします。

2021年度の4月に実施した「スタディーサポート」の学習状況リサーチと同じ質問項目を、年度末の2月に再び生徒に回答してもらい



VIEWnext ONLINE では、本時の授業の様子をダイジェスト動画で紹介！

VIEWnext ONLINE 検索

現在、授業は習熟度別クラスで行っており、基礎クラスでは教師による解説が多くなりやすいといった課題があります。生徒主体の授業とするため、ファシリテーション力の向上に一層努めていきたいと思えます。

両者の結果を比較すると、学習態度が大きく改善されてきました。特に、「自分で解けない問題に出合った時、どこが分からないのかを明らかにするようにしている」は約20ポイント、「すぐに解けないと感じた問題について、諦めずにいろいろな方法を考える」は約15ポイント、肯定率がアップしていました。反転授業を始めてから、模擬試験の数学の平均偏差値も上がり、そうした成果から、今では本校の数学科の全教師が反転授業を取り入れています。

単元の指導計画

【教科・科目】数学・数学Ⅱ 【分野・単元】積分法 【テーマ・作品】放物線と円が囲む面積、面積の等分 【設定時数】全6時間（本時は6時間目） 【単元目標】問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察する力を身につける

時数	学習内容	身につけさせたい資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価方法
1	導関数と不定積分の関係 不定積分の計算	<ul style="list-style-type: none"> 不定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和、及び差の不定積分を求めることができる。 仲間と協力して問題を解くことができる。 自分の理解を言語化できる。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 <p>【知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、協働性】</p>	①教科書や動画による予習 ①予習内容の確認（基本問題） ②学び合い ③教師によるポイント解説 ④発展問題の演習 ⑤振り返り	<p>【主体的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師の解説は必要最低限にとどめて、生徒の活動時間を十分に確保する。 予習ノートで理解が不十分であることを把握し、個に応じた指導を行う。 <p>【対話的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師は、ファシリテーターに徹する。 座席は指定しない。 机間指導を丁寧に行い、生徒の理解が曖昧な部分を引き出し、「なぜ」を追究する。 <p>【深い学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学び合いで得たことを発揮できるような発展問題を選定する。 対話的な学びで出た「なぜ」をクラス全体で共有し、丁寧に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> セクションテストによる基礎学力の定着度の確認 自己評価シート 協働的な学びに対する姿勢
2	定積分の計算	<ul style="list-style-type: none"> 定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和、及び差の定積分を求めることができる。 仲間と協力して問題を解くことができる。 自分の理解を言語化できる。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 <p>【知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、協働性】</p>			
3	定積分の性質 微分と積分の関係	<ul style="list-style-type: none"> 微分と積分の関係に着目し、積分方程式の解を求めることができる。 仲間と協力して問題を解くことができる。 自分の理解を言語化できる。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 <p>【知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、協働性】</p>			
4	定積分の図形的な意味 2つの曲線の間の面積	<ul style="list-style-type: none"> 微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察することができる。 仲間と協力して問題を解くことができる。 自分の理解を言語化できる。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 <p>【知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、協働性】</p>			
5	いろいろなグラフと面積	<ul style="list-style-type: none"> 事象を積分の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようしたり、粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようしたりしている。 仲間と協力して問題を解くことができる。 自分の理解を言語化できる。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 <p>【知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、協働性】</p>			
6	問題演習（放物線と円が囲む面積、面積の等分）	<ul style="list-style-type: none"> 事象を積分の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようしたり、粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようしたりしている。 仲間と協力して問題を解くことができる。 自分の理解を言語化できる。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 <p>【知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、協働性】</p>			

※藤原先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。

「マイ・ストーリー」を描き、それを語れる力が、これからの大学入試で希望進路を実現するために必要とされることを検証し、そうした力を生徒に育む教師の指導や支援のあり方・方法を、実践事例を通じてお伝えしたVIEWnext高校版2021年8月号・特集はこちら▶



「マイ・ストーリー」とは、生徒一人ひとりの「自分のこれまでの学びや活動、その成果や結果に至るまでのプロセス、これからの展望」を指す。総合型選抜や学校推薦型選抜（以下、推薦型選抜）を始めとするこれからの大学入試に向けて、「マイ・ストーリー」を描き、それを語れる力を生徒に育む実践事例を紹介する。

3年次1学期

志望理由書作成の支援

第1志望届や図書レポートを基に、内面を掘り下げた問いを繰り返す

北海道旭川永嶺高校^{えいりょう} 進路指導部と3年次団

マイ・ストーリー
3年次1学期
の課題

- ・ 大学・学部の特徴の要約と、自身の活動記録に終始した志望理由書に、志望に至るまでのプロセスを盛り込む
- ・ 自分の将来と結びつく志望校を見いださせる

3年次4月からの個別指導で、将来像の言語化を支援

2016年度に2校が統合して開校した北海道旭川永嶺高校は、生徒が進路意識を早期から高められるよう、進路指導を充実させてきた。現在は、1年次から進路講演会や模擬試験などの振り返りを「キャリアノート」に蓄積させ、2年次には、看護体験や小学校見学などの体験学習を実施。2年次の1月には、目標とする大学とその志望理由を約800字で書く「第1志望届」を提出させて、3年次進級を前に、受験生としての自覚を促している。

加えて、推薦型選抜の希望者には、2年次の春季休業中、志望学部・学科に関する書籍を読んで感想を書く「図書レポート」を課す。専門分野について意見を語れるだけの知識や書く力があるかを、生徒に確認させるためだ。そのようにして、生徒が自身の進路に真摯に向き合い、「マイ・ストーリー」を言語化する機会を設けるなど、希望進路の実現に向けて早く動き出すための支援体制を整えたと、進路指導部長の水野雅文先生は語る。

「生徒は、日々の学習や部活動などに追われて将来を考えられていないだけで、きっかけさえあれば動き出します。それぞれの取り組

みの中には、自発的に志望理由書の添削を教師に依頼してきたり、知識不足を痛感して読書に励むようになったりする生徒もいます」

3年次4月には、例年約40人を超える推薦型選抜希望者一人ひとりに担当教師をつけ、志望理由書作成の個別支援を本格化させる。2年次の第1志望届では、大学案内などを参照して要約した大学の特徴や研究内容を、理由もなく自分の志望と合致していると記述するだけの生徒が大半だ。体験談を書いても、活動内容の説明に終始し、体験によってもたらされた成長や将来像を、大学の学びに結びつけて表現することができていない。そこで、キャリアノートや第1志望届、図書レポート、生徒が自身の長所や短所をまとめた「自己紹介カルテ」などを基に、生徒に丁寧な志望に至るまでのプロセスを問いかけるなどして、志望理由書の作成を支援していると、3年次主任の安井健治先生は話す。

「教師の『どうして？』『なぜ？』という問いかけに、生徒は、ただただどくどくか答えられない自分に気づき、内面を掘り下げていきます。時間がかかっても、そうしたやり取りを繰り返して、内面を言語化させて、『マイ・ストーリー』を形づくっていきます」

志望校と将来像のずれが早めに顕在化し、問い直しが可能に

志望理由書作成の個別支援は、将来像に対

マイ・ストーリーを育む 一連の支援

1年次～3年次

職業人講演会や大学見学、大学出前講義などの進路行事での気づき・感想、模擬試験の目標・結果・振り返り、職業・学問適性診断の結果などを「キャリアノート」に蓄積。

2年次冬季休業

「第1志望届」として、第1志望校を志望する理由を約800字で作成。保護者のコメントと押印も添えて提出。

2年次3月

進路指導部と2年次団で、2年生全員について、生徒の希望進路と志望校が合致しているか、総合型選抜・学校推薦型選抜に向いているかなどを確認する検討会を実施（放課後に2日間）。総合型選抜・学校推薦型選抜の希望者は学問分野ごとにグループングし、グループ単位で指導にあたる。

2年次春季休業

総合型選抜・学校推薦型選抜の希望者は、「図書レポート」として、志望学部・学科に関連する書籍を1冊以上読み、①読み終えた感想、②何を学び取ったか、③自分の意見などを書く。加えて、志望校のアドミッション・ポリシーも調べて記入する。

3年次4月

3年生全員に二者面談を実施。3月の検討会の内容を踏まえつつ、希望進路を確認する。総合型選抜・学校推薦型選抜の希望者は、自己紹介カルテ（志望校のアドミッション・ポリシー、志望大学・学部・学科の特徴、自分の長所・短所、趣味・特技などを記入）を作成し、担当教師に提出。**志望理由書作成の個別支援を本格的に開始。**

3年次7月

総合型選抜・学校推薦型選抜入試ガイダンスを実施。生徒・保護者に受験の意思を最終確認。

3年次8月以降

小論文・面接の個別指導を本格化。

※学校資料と取材を基に編集部で作成。



後列左から／山田訓之（進路指導部副部長）、近江谷優介（3年次担任）、岸本浩昭（3年次担任） 前列左から／水野雅文（進路指導部長）、安井健治（3年次主任）

※プロフィールは、2022年3月時点のものです。

学校概要

- ◎設立 2016（平成28）年
- ◎形態 全日制／普通科／共学
- ◎生徒数 1学年約240人
- ◎2021年度入試合格実績（現浪計） 国公立大は、小樽商科大、帯広畜産大、北見工業大、北海道教育大、北海道大、室蘭工業大、新潟大、静岡大、釧路公立大、名寄市立大などに45人が合格。私立大は、旭川大、北星学園大、北海学園大、専修大、東洋大、法政大、明治大、立教大、立命館大、関西学院大などに延べ269人が合格。

北海道旭川永嶺高校 進路指導部と3年次団の教師たちの進路指導をさらに詳しく紹介！

VIEWnext ONLINE ▶▶▶



して適切な志望校を見いださせていない生徒と早期に向き合う機会にもなった。

3年次担任の近江谷優介先生が担当した推薦型選抜希望者は、第1志望校に室蘭工業大学を挙げ、家業の農業に役立つ農業機械の研究をしたいと語った。近江谷先生は、北見工業大学も選択肢に挙げたが、反応は芳しくなかった。よく聞くと、札幌市に近い室蘭工業大学を志望する友人が多い点にもこだわっていた。そこで、近江谷先生は、水野先生に相談し、両大学の農業機械の研究を詳細に調べて生徒に伝え、生徒は自分でも調べた上で、納得して第1志望校を北見工業大学に変更。面接では、家業と農業体験、大学が力を入れていける農業機械の研究を結びつけて志望理由を語ることで、合格をつかんだ。

「志望校変更は、それが将来像に合致してい

ても、生徒が考えを整理し、納得するまでに時間を要します。図書レポートや自己紹介カルテなどで潜在的な希望も含めて生徒の意思を把握する中で、志望校に違和感を覚えたら、早めに生徒に確認しています」（近江谷先生）

3年次7月に「入試ガイダンス」を行う頃には、多くの生徒が志望理由を明確に語るようになるため、8月以降は、自分の意見や表現力が問われる小論文や面接の指導に十分時間をかけることができている。そうしたことが奏功し、21年度大学入試では、推薦型選抜の受験者のうち、約半数が合格を果たした。

「志望校合格は、自己実現への1つの通過点です。生徒には、『自分のストーリーのゴールはどこにあるのか』と何度も問いかけ、未来を見据えた『マイ・ストーリー』を語る力を育んでいきたいと思っています」（水野先生）

クローズアップ! 就職指導

就職指導の実態と課題

3年次の前半、 約6か月間に 指導が集中

高校の就職指導が本格化するのは3年次の4月からで、7月に求人票の閲覧が可能となり、企業・事業所（以下「企業」）の採用試験が解禁となる9月中旬にピークを迎える。生徒一人ひとりの適性や希望に合った企業を見つけ、採用試験に向けた準備・対策をするための指導が極めて短期間に集中することから、就職指導担当の教師の負担が大きいのが実情だ。

社会の様々な事象におけるオンライン化により、面接指導なども、対面方式とオンライン方式の両方を見据えて行う必要も出てきた。臨時休業や学校行事の中止・縮小などが、生徒の進路意識の醸成や自己理解の深化に影響が出ることも念頭に置くべきだろう。そうした高卒就職を取り巻く環境変化を踏まえて、次号から実践事例を交えながら、よりよい就職指導のあり方を考えていく。

就職指導のスケジュール

1・2年次

- 自己理解、進路適性検査
- 社会（地域）の現状を知る
- 職業や職種を理解する
- 就職活動に関する基礎知識を伝える
- 自校の先輩の就職先を知る
- 企業調べ
- マナー講座
- 進路講演会（卒業生、人事担当者）
- インターンシップ、職場見学 など

3年次

	企業の人事担当	高校	
		高校の進路担当	生徒
4月～	●学校訪問開始	●年度初めの進路調査／面談	
5月中旬～下旬	●ハローワーク主催の学卒求人説明会への参加	●マナー講座、面接指導 ●求人票の読み方指導	●希望進路の決定 ●志望理由、自己PRの深掘り
6月1日～	●ハローワークに「求人申込書」を提出	●三者面談	
7月1日～	●ハローワークから交付された「確認印」の押された求人票のコピーを学校に届ける（またはウェブ公開する）	●求人票の受け付け ●「高卒就職情報WEB提供サービス」の閲覧・ダウンロード	●求人票の閲覧 ●エントリーを希望する企業を検討
7月中旬まで		●校内選考（7月中旬まで）、応募前職場見学の斡旋	
		●三者面談（校内選考の結果を通知）	
7月中旬～8月中	●応募前職場見学の実施	●面接、筆記試験、グループディスカッションなど、本番を想定した指導	●応募前職場見学への参加 ●志望する企業に提出する履歴書作成
9月5日～	●応募書類の受け付け	●応募書類の提出	●履歴書等の書類の完成
9月16日～	●選考開始（面接・筆記試験・グループディスカッションなど）		
選考後7日以内	●採用可否の決定／可否通知	●生徒への可否結果の伝達	●採用▶お礼状や入社承諾書などの書類を作成 ●不採用▶2次募集への応募

担当教師が考える「これからの就職指導」



井上和也
三重県立桑名北高校

今後の進路指導には、 就職指導の前倒しと 教師間の役割の分散が必要

いのうえ・かずや
就職歴29年。同校に赴任して7年目。主幹
教諭、進路指導部代表。2001年度より
22年間にわたり、総合学科、工業科、普通
科の高校で進路指導（主として就職指導）
を担当。

高校の就職指導は、様々な課題に直面しています。多くの高校で就職担当の教師が固定化し、若手教師への指導の知見の伝承が進んでいません。就職指導を不安なく担える教師の絶対数も不足し、求人票の閲覧が始まるまでに、3年生と面談を重ねて志望を掘り下げるのに苦慮しています。特に普通科では、1・2年次は進学希望だった生徒が、3年次になって就職希望に変更し、短期間で企業研究に取り組むこともあります。また、就職の仕方も、学校幹旋就職から縁故就職まで様々で、求められる指導も異なります。

企業の状況も変化しています。大手企業では、採用試験の難度が上がり、大卒者向けのような適性検査や筆記試験を行う企業も見られます。面接も、かつての紋切り型の面接から、答えが1つとは限らない、思考力や発想力を問う面接へ変わってきています。そのため、真面目でおとなしく、とっさの判断が苦手な生徒が不採用になることも珍しくなくなりました。

就職担当者に求められるのは、生徒の志望と適性の把握、企業の求める人物像の明確化、そして両者のマッチングであることは、今後も変わりません。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大を受けた採用環境の変化で、企業へのコンタクトが取りづらくなり、非訪問での職場見学や面接など、ハードルは高くなっています。

適性も希望も価値観も多様な生徒に対する就職指導においては、どのように生きたいのか、どんなふうに通きたいのかについて、生徒に熟考を促すような問いを、1年次の段階から、様々な場面で少しずつ投げかけていくことが、今後さらに重要になるでしょう。

低学年次からの進路意識の醸成は、一見、指導の負担の増大に思えるかもしれませんが、現状は、そういった指導も含め、3年次の前半期に詰め込んでいる状況です。その指導の一部を低学年次に行い、「3年次からの就職指導」が、「低学年次からの中長期のキャリア教育」へと深化すれば、教師も生徒も余裕を持ってじっくり取り組むことができ、自分の夢を実現するために、少々の困難にも立ち向かえる強さを、生徒の中にじっくりと育めるでしょう。

そのためには、3学年の担当教師だけではなく、学年や分掌を超えた多様な教師が就職指導にかかわることが必要です。そして、若手からベテランまで、様々な教師が、社会人の先輩として、働くことの魅力や、人生を幸福なものにする要因についての自分の考えを語ることが大切です。それにより、就職担当の教師の負担が軽減され、働き方改革と指導知見の伝承の両立が図れます。

就職指導の総量は変わらない上に、生徒のアウトプットや教師の指導の質が向上するのであれば、指導の前倒しは有効な手段と言えるでしょう。



チーム 新課程 学年主任

Supported by
ベネッセ文教総研

4月

5月

6月

のポイント

本コーナーはハイスクールオンラインの〈先生SNS〉のコーナーと連動しています。〈先生SNS〉では詳細の情報・資料をご提供しています。また、先生方が直面される課題やその解決方法の共有の場としてもぜひご利用ください。

ハイスクールオンライン 〈先生SNS〉

<https://teacher.benesse.ne.jp/>



※ハイスクールオンラインのIDをお持ちでない先生は、校内でご確認いただくか、WEBサポートデスク0120-350124までご連絡ください。

〔受付時間〕
月～金8:00～18:00 / 土8:00～17:00
(祝日、年末・年始を除く)

学校を超えたネットワークで、新課程初年度の好スタートを！

4月になり、新課程初年度生が高校に入学しました。一方で、高校2、3年生は現行(旧)課程下で動いているため、新課程ならではの新たな課題に対して、学校全体を挙げて解決する体制は取りにくい状況にあるように思います。また、1人1台端末の活用や大学入試環境の変化など、様々な変化が一気に押し寄せてきています。これまでのやり方がそのままでは通用しない場面が多い3年間になると考えられます。

そこで、ベネッセ文教総研では、新課程初年度学年の運営に携われる学年主任の先生のお役に立てるよう、「**チーム新課程学年主任**」の取り組みを開始します。

新課程初年度学年の運営にテーマを絞って、時期に応じた情報や資料をご提供し、学校を超えてタイムリーに課題や解決事例を共有でき

るようになっています。

まず、本コーナーで、新課程初年度ならではのチェックポイントを、下の表でご確認ください。例年の1学年主任の先生以上に、「少し先」を見通しながら、今をマネジメントすることが必要になるのではないかと思います。学年団の先生方との検討事項の参考にしていただけたらと存じます。

また、ベネッセハイスクールオンラインの〈**先生SNS**〉のコーナーを活用して、詳細な情報のご提供を行っています。学年主任の先生方のお困りごとについてのご質問や必要な資料のご要望をお受けできるようにしております。内容の一部を左ページで紹介しています。

ベネッセハイスクールオンライン内のバナー、または右下の二次元コードより、ぜひ〈先生SNS〉にお越しください。

4～6月のチェックポイント

数か月先を見通した新課程初年度学年ならではのポイントです。詳細はハイスクールオンライン〈先生SNS〉をご覧ください。

6月	5月	4月
<input type="checkbox"/> 7月進研模試に向けて <input type="checkbox"/> 7月面談に向けて <input type="checkbox"/> 定期考査の改革	<input type="checkbox"/> 保護者への発信事項 <input type="checkbox"/> 定期考査の改革	<input type="checkbox"/> 1年間・3年間の概観 <input type="checkbox"/> 新生生の状況把握
<ul style="list-style-type: none"> ● 新課程対応の確認 ● 定期考査と学力テストの違い・事前学習の指導 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「探究」の意義 ● 学校推薦型・総合型選抜の拡大と求められる人材像 ● 観点別学習状況の評価について ● 思考力・判断力・表現力を問う問題作成のあり方 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中学校での学習状況の変化 (新課程・GIGAスクール・コロナ禍の影響) ↓ おすすめのコンテンツ&フォーム (左ページ) ● スタディーサポートで確認したいポイントの確認

テーマ

コンテンツ例

チームの仲間へmessage

アイデアを共有して、
“10m先”を歩きましょう

三浦隆志

授業デザイン研究所代表

新 1学年主任の皆さん、高校の新学習指導要領がいよいよ実施されました。この新課程最初の学年主任として、今どのようなことを思っておられますでしょうか。私も初めて学年主任となった際、生徒の3年後を見据えて、あれこれ考えました。ある先輩の先生から「学年主任として先生方や生徒たちの“10m先”を歩きなさい」とのアドバイスをいただき、さらに頭を抱えてしまいました。もちろん、目の前の生徒の姿を見て、学年団の先生方と対話しつつ、学年経営を進めるわけですが、この先どうしたらよいのか、何かよいアイデアは提示できないかと悶々と考え続けました。校内で既に学年主任を経験された方に、お話を伺うこともしました。そのような折、学校に来られたベネッセの社員の方に考えていたことを話してみたところ、県外の学年主任の先生方をご紹介いただきました。その結果、新しいアイデアなどをいただき、学年の課題を克服することができました。生徒や先生方の“10m先”を歩くことができたようになったのです。

新課程初年度の1学年主任の役割は大きく、新課程を踏まえての新たな課題解決が求められています。このような変革期にこそ、学校を超えたネットワークを作り、アイデアを共有し、楽しみながら課題を解決することが重要だと思います。

前述のとおり私は少し先を歩くことを意識し、様々な経験をしてきました。今回、皆さんとともに考え、ともに“10m先”を歩いていこうと思います。どうかよろしくをお願いします。

みうら・たかし

ノートルダム清心女子大学非常勤講師
元岡山県立林野高校校長

〈先生SNS〉

おすすめ
コンテンツ
& フォーム中学校での
指導状況・学習状況を
把握する

中学校・中学生の変化

今年度の新入生は、中1、中2の移行措置期間を経て、中3で新学習指導要領全面实施となり、新しい教科書で学習しています。1人1台端

末も導入されました。また、中1の終盤から2年強、コロナ禍の影響の中で中学校生活を送ってきました。

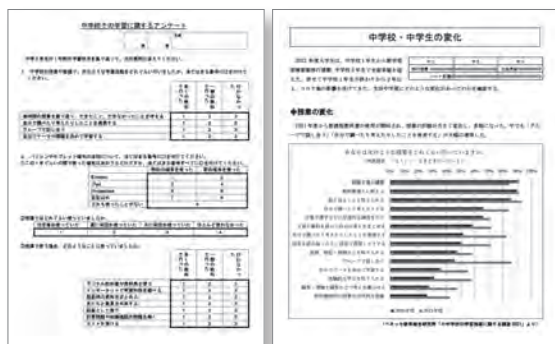
そのような新入生が、過去の学年と比べてどのように変化しているのかについて、ベネッセ教育総合研究所の調査「小中学校の学習指導に関する調査2021」の結果などを基に整理しています（詳細は、〈先生SNS〉の「資料室」よりダウンロードしてご覧ください）。

例えば、授業では「グループで話し合う」「自分で調べたり考えたりしたことを発表する」指導が大幅に増加しており、対話的な学びが

進んでいる状況が分かります。

それらを踏まえて、校内で中学校での学習経験についてのアンケートを行う場合のひな型を、加工可能なファイルでご用意しています。資料作成の時間削減のためにも、ぜひご利用ください。このほかにも、様々な情報資料と発信用ひな型を準備しています。

また、〈先生SNS〉の「相談室」では、学年運営等でのご質問や、事例情報のリクエスト、ご相談等をお受けいたします。先生方相互のコミュニケーションも可能です。ぜひご利用ください。



他の先生に相談したい時は⇒相談室へ

使える資料で負担軽減したい時は⇒資料室へ



※プロフィールは、2022年3月時点のものです。



冬来たりなば、春遠からじ。

隔月発刊の本誌はいつも、季節の移ろいの中に製作します。今号では、発刊日が近づくにつれ、目に見えて町が色づいていきました。

振り返ると2月、「マイ・ストーリーを語る生徒を育む進路指導」の取材のために訪問した北海道旭川水鏡高校に広がっていたのは、一面の銀世界と鈍色の空でした。その校庭の雪上に描かれた、どこまでも続く一筋の道。隊列を組んで汗を流すジャージ姿が、ひととき鮮やかに見えました。

冊子がお手元に届く頃、先生方の通勤路は、年度の始めにふさわしい春色にあふれているのかもしれませんが。実は、あの道を通って、季節はやってきたのです。自らを温め、明日に向かって走る生徒が雪を溶かし、温もりや色彩を連れてきてくれたのです。(河野)



VIEWnext
高校版は

電子ブックで閲覧できます

『VIEW next』高校版、『VIEW21』高校版2020年4月号以降の記事は、電子ブックでご覧いただけます。ウェブサイト「VIEW next ONLINE」でご確認ください。

HOME → 学校教育情報誌『VIEW next』 → 高校版バックナンバー

<https://view-next.benesse.jp/>

VIEWnext

高校版 2022年6月号

6月20日発刊

(予定)

『VIEW next』高校版は
年6回の発刊です

先生方からのご意見を
紹介します

Reader's VIEW

2022年2月号へのご意見

ICT活用のポイントは「コミュニケーション」

2月号の特集『「1人1台端末」最前線』の実践事例で、愛知県・私立杜若高校がICTの活用のポイントを「コミュニケーション」と捉えて、授業の質的な転換を実現したところに共感した。個人的には、「ここでICTを使えば面白い授業ができる」と感じる場面が時々ある。今まで授業でやりたかったができなかったことのいくつか、ICTの活用で可能になると感じさせることが、ICT活用の第一歩だと感じている。例えば、プレゼンテーションソフトを活用して板書の時間を減らし、PDFの配信によってプリント配布の手間を省くことでできた時間を生徒の活動にあてるだけでも、ICTを使う価値があると思う。まずは使ってみることが大切だろう。ICTが得意な教師に任せるのではなく、授業経験の豊富な教師とICTスキルのある教師がチームを組めば、新たな発想が生まれるのではないだろうか。

千葉県立銚子商業高校 田中三郎

生徒の課題が膨らんでいくことこそが大切

「総合的な探究の時間」などでは、生徒が課題を設定した後、その探究に向けて、情報の収集・整理・分析などを行い、1年間の活動を総括するといった流れになっている。その流れには、予定調和的にまとめたいといった学校の論理があるような気がしている。確かに、学期や学年といった区切りがある中で、仕方のない部分もあるかもしれない。ただ、2月号の「未来を描く！ 創る！ イノベティブな生徒たち」で紹介された東京都立南多摩中等教育学校の生徒たちは、活動を続ける中で「課題も見えてきた」と語っていた。課題がどんどん膨らんでいくのが、ある意味あたり前であり、そうした広がりを持たせていくことを大切にしたいと、改めて考えた。

岩手県立花巻北高校 川村俊彦

生徒への組織的なメンタルヘルスケアに感銘

コロナ禍の影響で、生徒がストレスや不安から心身の様々な不具合を感じている割合が高くなっている。2月号の「輝く学年団を訪ねて」の沖縄県立開邦高校の記事を読み、生徒へのメンタルヘルスケアが組織的に行われていることに感銘を受けた。生徒へのアンケートを基にどのように面談担当者をつけ、スクールカウンセラーをどのように活用しているのか。学校を訪問して、話を聞いてみたい。

大阪府立八尾高校 中村泰造

英語の授業におけるバリエーションの有効性を再認識

1時間の授業の中に、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」のすべてを入れ込むことに意識が向いてしまっただけだと感じている。バリエーションに富んだ授業をすることで、生徒が飽きないように授業をすることは可能かもしれないが、それで必ずしも力がつくとは限らない。しかし、英語の授業では、1つの英単語を様々な方法で活用した方が、より記憶に残り、その英単語を活用できるようになるため、バリエーションを豊かにすることが他教科よりはるかに有効だと思っている。そのことを、2月号の「主体的・対話的で深い学び 授業実践」の東京都立福生高校の記事を読んで再認識した。

福岡県・私立大牟田高校 荒木信一

VIEWnext 編集部からのお知らせ

教育総合情報サイト

VIEWnext ONLINE 未来を拓く教育情報 & オピニオン
4月15日(金) オープン!
ビューネクスト オンライン

学校関係者や保護者、そして教育に関心のある人が、学校や教育の今を捉え、未来を見通せるよう、最新の教育情報や教育に関するオピニオンをお届けする教育総合情報サイトを開設しました。本誌と併せて、ぜひご活用ください。

【URL】

<https://view-next.benesse.jp/>

VIEWnext ONLINE

検索



スマートフォン
でも読みやすい
画面

本誌の
バックナンバーも
検索しやすい!

PC・スマホで「お気に入り」等の登録をお願いします

※画面は開発中のものです。

VIEWnext ONLINE では、本誌と連動したウェブオリジナル記事を続々更新!

誌面で紹介した授業実践が動画で見られる!

発問・課題設定をキーに見る

主体的・
対話的で
深い学び

授|業|実|践

今号の「発問・課題設定をキーに見る 主体的・対話的で深い学び 授業実践」で紹介した、埼玉県・私立西武学園文理中学・高校・土屋進一先生の英語の授業と、兵庫県立三田祥雲館高校の藤原雄先生の数学の授業を、ダイジェスト動画でご覧いただけます。



土屋先生は、古文担当の教師と教科横断型授業を実施。『源氏物語』の英訳に挑戦した生徒たちが、英語のニュアンスについて理解を深めていく様子が分かります。



反転授業を行う藤原先生。生徒は予習してきた学習内容を基に、2つの問題に生徒同士で学び合いながら取り組みました。

「もっと知りたい!」の声に
お応えして、誌面でお伝え
しきれなかった内容をご紹介

マイ・ストーリーを語る

生徒を育む進路指導

北海道旭川永嶺高校が推進する「推薦プロジェクト」。進路指導部と3年次団が連携し、生徒を支援する校内体制を詳しく紹介します。

これからの
進路指導のための

世の中トレンド解説

今号のトレンド・ワード「カーボンニュートラル」。気候変動への対応がもたらす変化を、「学ぶ・働く・暮らす」の視点から掘り下げます。

VIEWnextのLINEをご登録いただければ、
VIEWnext ONLINE やVIEWnextの電子ブックに、ダイレクトにアクセスできます!

VIEWnext公式アカウント

LINE@

友だち募集中!

友だち登録をすれば、冊子の発刊時や新コンテンツの公開時に通知が届きます。
友だち登録の方法は、右の2次元コードを読み取っていただくか、LINEアプリの「友だち追加」>「ID検索」で「@view21」とご入力いただき、追加をお願いいたします。



次の 一歩

C o v e r
S t o r y

後藤 僚太 先生

神奈川県立横浜平沼高校

Goto Ryota

支え、支えられ、 ともに成長した 日々を糧に

初 めて担任を受け持ち、3年間持ち上がった学年の生徒が、この春卒業しました。担任として、学年の進路担当として、できることはすべて実践しようとして、走ってきました。私は高校時代、第1志望の大学に合格できず、悔しい思いをしましたが、目標の達成に向けて努力した日々は、今の私の支えとなっています。そこで、生徒にも希望進路の実現に向けて全力を尽くしてほしいと考え、「**磨穿鉄硯**」を学年の進路のスローガンとし、できる限りの支援策を講じました。本校の生徒なら、自分に必要なことを選び、自身の可能性を

追究することができると思います。

毎週金曜日の放課後、私は進路指導室に必ず在室し、生徒が相談に来やすいようにしました。2年次には、学年団や進路指導部に相談して補講の数を増やし、難関大学志望者への支援を強化。そして、2年次3学期に書く「第1志望校宣言」は、生徒が進路をより深く考える機会になるように、保護者にもコメントをもらう形にしました。

生徒は、それらを知りて自分の糧にしました。何度も相談に来て、迷いに迷った果てに第1志望校を決定した生徒、講習をいくつも受講し、自学で大学合格をつかんだ生徒、第1志望校宣言を機に将来像が明確になり、集中力が格段に上がった生徒。そうした生徒たちの姿に、私は少しずつ自信をもらいました。

ともに成長した生徒は巣立ち、新たな出会いの季節が訪れました。初の担任として試行錯誤してきた日々を生かして、これからも「未来の創り手」を支援すべく、歩み続けていきたいと思えます。



生徒より

進

路説明会で流される、後藤先生自作の動画が毎回楽しみでした。テロップの使い方やテンポなどがプロ並みで、内容が分かりやすく、進路意識を高めることができました。進路相談では、模擬試験の結果を基に学習方法について助言してくれたり、自分の希望に最適な大学や学部を調べて、一緒に考えてくれたりしました。振り返ると、先生からの様々な支援があったからこそ、私たちは志望校合格に向けて突き進めたのだと思います。その感謝を胸に、大学でも、自分の道を自分で選んで歩いていきます。

ごとう・りょうた 教職歴3年。同校に赴任して4年目。進路グループ。地理歴史・公民科。3学年担任。

神奈川県立横浜平沼高校 全日制／普通科／共学／1学年約320人／2021年度入試合格実績(現役のみ) 国公立大は、北海道大、東京工業大、横浜国立大、横浜市立大などに37人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大などに延べ688人が合格。

※プロフィールは、2022年3月時点のものです。

お客様サービスセンター

フリーダイヤル **0120-350455** [受付時間] 月～金8:00～18:00/土8:00～17:00(祝日、年末・年始を除く)

株式会社ベネッセコーポレーション岡山本社 〒700-8686 岡山市北区南方3-7-17